

2018 (平成30) 年度

千葉県 NIE 実践報告書

(*Newspaper in Education* = 教育に新聞を)



八千代市立勝田台南小学校
我孫子市立我孫子第三小学校
富里市立日吉台小学校
いすみ市立東海小学校
富津市立天神山小学校
千葉市立大森小学校
睦沢町立睦沢小学校
市原市立清水谷小学校
船橋市立芝山中学校
松戸市立新松戸南中学校
旭市立干潟中学校
山武市立蓮沼中学校
富津市立大貫中学校
千葉市立磯辺中学校
鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校
千葉県立成田国際高等学校
昭和学院秀英中学校高等学校
松戸市立松戸高等学校
千葉県立君津青葉高等学校
千葉県立仁戸名特別支援学校
千葉県立四街道特別支援学校

千葉県 NIE 推進協議会

新聞を活用した職業調べ

八千代市立勝田台南小学校 辻村 千晶

1 はじめに

本校は、平成29年度よりN I E実践校の指定を受け、実践を積み重ねてきた。昨年度は国語科と関連させた授業をし、本年度はさらに6年生を対象に、キャリア教育と関連させた活動を行った。以下はその実践内容の概略である。

2 実践状況

6年生では、これまで国語科や社会科で新聞を活用した授業を展開してきた。また、5年生で新聞社の出前授業を受けたことや新聞社の見学に行ったことをきっかけに、朝の日直のスピーチも新聞やニュース番組の情報から考えたことをテーマに発表してきた。

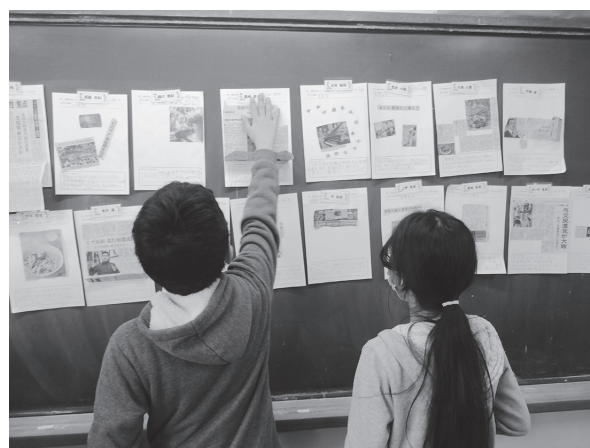


6年生の総合的な学習の時間「私たちの将来を考えよう」を通して、キャリア教育の授業実践を行った。授業展開の流れは以下の通りである。

- ①新聞を活用した職業探し
- ②興味をもった職業を調べる
- ③職業体験施設での体験活動
- ④多種多様なゲストティーチャーの講話
- ⑤興味のある職業についてのまとめ

キャリア教育を通して、働くことのやりがいや

様々な職業について調べた。本年度はキャリア教育と新聞を関連付けた取り組みを題材の導入として行った。働くということを考えたり、働く人の仕事に対する誇りや思いを知ったりすることで、将来への希望と働くことへの意欲をもたせることをねらいとした。



新聞の中から職業や生き方について分かる記事を探す活動を行った。新聞の中には、児童の知らない職業や産業、生き方をしている人たちが多く登場する。授業では、新聞から職業や生き方に関する記事を見つけ、切り抜きをプリントに貼り、考察したことを書いた。また、見つけた職業の切り抜きを貼り出し、友達と見合い、対話して、学びが深くなるように繰り返して活動した。

3 結果

児童が見つけた職業は、舞台俳優、酒造りの職人、AIの導入された介護ロボットなど多種にわたった。

貼り出した記事を見合いながら、児童からは「こんな職業があるんだ」「落語を海外でする人もいるんだよ」「レジにAIを導入すれば、人手不足の解消になるね」「前に校長先生が話していたよ

うに、大人になったら、もっと AI が多用されているかもね」と、声があがった。

4 考察

児童は、知らなかった職業や産業、生き方だけでなく、知っていた職業の新たな一面にふれることができ、驚いていた。切り抜きはその後も掲示し、いつでも互いに読み合える環境を作ったことで、働くことへの関心を高める導入ができた。

新聞を読むことが苦手な児童は、知らない職業を見つけることが難しく、スポーツ選手や政治家など、知っている言葉を手掛かりに職業探しを行っていた。活動が難しかった児童も、友達の切り抜きを読んだり話を聞いたりすることで、一緒に考えることができた。



5 まとめ

新聞を活用することで、それまで馴染みのなかった職業や生き方、職業体験施設やゲストティーチャーからの話だけでは得られない多様な情報にふれることができた。

昨年度から N I E 教育の実践を積み重ねてきたことで、児童の活動がスムーズに動いた。また、本校の児童は、全国学力・学習状況調査において、国語科の言語に関する正答率が特に高かった。新聞を活用した学習を進めてきた成果だと考えられる。家庭と連携して、授業以外でも新聞と関わる活動ができれば、さらに効果が上がるだろう。

しかし、2年間の N I E 教育の実践の課題として、各学年の活動では、新聞を活用することが目的となっている場面が少々あった。新聞という媒体にふれること自体も児童の経験上大切だが、そこから児童に何を考えさせるかのねらいを大切に、今後も授業実践を行っていきたい。

新聞を活用した授業づくり（2年目の取り組み）

我孫子市立我孫子第三小学校 阿部 剛志 柏原いずみ 小路 美幸 柳澤 翔太
桑澤 淳 染谷 瞳 高城 大 浅水 美記

1 はじめに

本校では昨年度よりN I E教育推進の指定を受け、本年度も高学年でN I Eの実践を行った。昨年度の成果と課題をふまえ、新たな取り組みも取り入れた実践を行った。各学年の実践内容を以下に紹介する。

2 国語「グループで話し合おう」（6年）

（1）内容(実施時期：5月)

選んだ記事について、自分の考えを友達に伝えた後、友達と意見交換をして、自分の考えを深め、自分の考えを文章に書き表す。

（2）手立ての工夫

- ・新聞記事を探す際にも、グループで活動を行い、新聞を見た感想を伝えながら選ぶようにした。
- ・2～3人の少人数のグループにすることにより、記事の内容を質問したり、考えや感想を気軽に伝えたりすることができるようにした。
- ・伝え合いをして終わりではなく、伝え合いをした後の自分の考えの深まりを文章に表すことにより、自分の変容を知ることができるようにした。

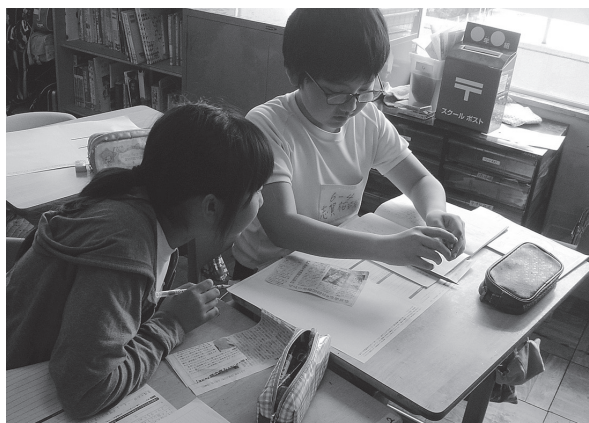
（3）成果と課題

- ジャンルを問わず、自分の興味のある新聞記事を選んでの活動だったので、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 友達と交流することで、自分の興味のある記事だけではなく、友達の選んだ記事の内容や友達の考えを知ることができた。また、その記事に

ついて、自分の考えも伝えなければならなかった。真剣に友達の記事を読んだり、友達の考えを聞いたりすることができた。

- 自分だけでは、一面的な見方しかできなかった児童が、友達と交流することによって、考えを深めることができた。

- ▲記事の内容によっては、友達との交流の後、同じ考えで、考えが深まらないグループもあった。教師の方から、いろいろな視点を与えるなど、改善の余地があった。



↑友達の記事を読み、友達の考えを聞いている場面

3 社会「学習新聞を作ろう」（5・6年）

（1）内容(実施時期：6年生 年間

5年生 2学期から3学期)

5年生の2学期に、新聞の書き方を学び、行事や社会科の学習のまとめとして、学習新聞を書く。

（2）手立ての工夫

- ・5年生は、裏面にレイアウトを印刷した用紙を用意し、全学年統一のレイアウトで新聞を書き、書くことに慣れるようにした。
- ・6年生は、ファックス原稿用紙を用意し、レイアウトは各自工夫して書くようにした。
- ・書いた新聞を読み合う時間をとったり、廊下

に掲示したりし、友達の書いた新聞を読めるように、次号の参考にできるようにした。

(3) 成果と課題

○新聞を書く活動を繰り返すことにより、どの児童も書くことに慣れ、素早く書くことができるようになった。

○学習のまとめとしての新聞のため、児童が各自教科書やノート、資料を読み返すことで、学習内容の理解が深まった。

▲新聞作成にとれる授業時間は2時間が限度で、児童によっては、全く時間が足りなかった。

▲作成した新聞を読み合い、感想を伝え合う活動を毎回行いたかったが、時間が足りず、掲示して各自で自主的に見るような形式が多くなってしまった。

4 総合的な学習の時間

「切り抜き新聞を作ろう！」(5・6年)

(1) 内容(実施時期：2学期)

5年生は「環境」、6年生は「自分のなりたい職業」に関する新聞記事を集めて、記事を読んだ感想や自分の考えを書きためる活動を行った。その後、模造紙大の用紙に、集めた記事を分類ごとにまとめ、自分の意見や感想を書いた「切り抜き新聞」を作成する活動を行った。

(2) 手立ての工夫

・NIE学習の指定を受け、のべ8紙を1カ月分、4部ずつ購読することができるようになったので、9月、10月の2カ月間に各クラス2紙ずつの新聞を購読するように計画を立て、多くの記事を集めるようにした。

・各自がどの分野の記事を集めているのかを、学級で互いにわかるようにし、友達の集めている記事を見つけたら、教えてあげられるように声をかけた。

・模造紙大の用紙にまとめる活動では、児童の思考が整理できるように、画面の構成を考えながら、集めた記事をさらに細かく分類して貼るよう指導した。記事や分類ごとに意見や感想を書くことで、自分の考えを深めることができた。大見出しや小見出しも工夫して「切り抜き新聞」を作成することができた。

(3) 成果と課題

○各学級とも、家庭で新聞を購読している家庭が半数程度であった。この活動をするまでは、新聞を読む活動をしたことがある児童が少なかつたように感じる。学校で新聞を購読し、新聞記事を集める活動を行ったことで、児童が新聞に興味をもつきっかけとなった。

○新聞記事から、テーマに合った記事を探す活動を通し、新聞の構成や仕組みについて理解を深めることができた。

○5年生は「環境」についての記事を集めたことで、自然災害の多さや被害の深刻さ、希少な生物等について、知識を増やし、自分の意見をもつことができた。

○6年生は「自分のなりたい職業」についての記事を集めたことで、様々な分野の記事に目を通し、自分に必要な記事か、友達が探している記事かを見極められるようになった。

○「切り抜き新聞を作る」という目標があったため、意欲的に新聞記事を集める活動を行うことができた。また、まとめる活動も、レイアウトや見出し等を工夫して行うことができた。

○東京新聞社主催の第16回新聞切り抜き作品コンクールに出品し、「入選」・「佳作」を各1名が、また指導教諭に与えられる「いきいき学習賞」を受賞した。

▲記事を集めることに夢中になり、じっくり読むことをしていない児童もいた。そのため、記事

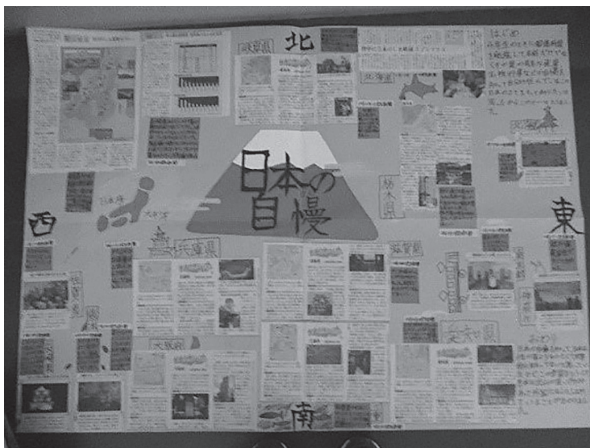
の文章が途中で切ってしまったり、どこまでが自分が必要としている記事か理解していなかったりする児童がいたので、個別に確認する必要があった。

▲記事に対する自分の考えの記述には個人差があった。考えを交流するなどするともっと理解が深まり、よい考えが書けたと感じる。

<活動の様子>



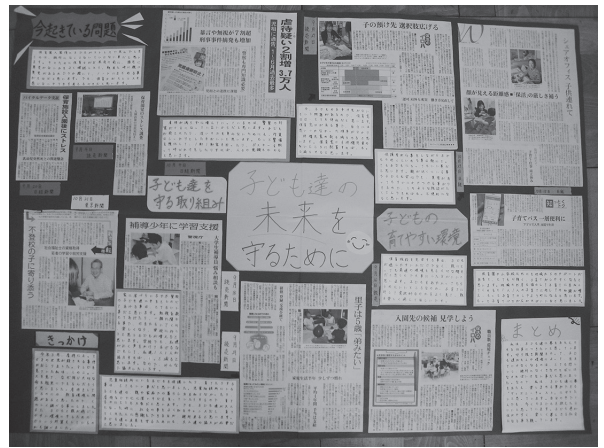
<5年生の作品>



<6年生の作品>(入選作品)



(佳作作品)



5 まとめ

新聞記事を選んだり、集めたりする活動では、友達同士で情報交換をし、友達が興味のある記事を見つけると、「ここにこんな記事があるけどいる？」と声をかけて記事を紹介し合う様子も見られ、学級の人間関係が深まったように感じる。また、新聞や作品作りに関しても、友達の良い点を見つけて自分に取り入れたり、アドバイスをし合う活動が自然に行われたりするようになり、学級経営にも良い影響が見られた。2年間の実践は本年度で終わりだが、この2年間の活動を今後も生かし、新聞を活用した授業を続けていきたい。

新聞に興味・関心をもたせるための授業づくり

富里市立日吉台小学校 新井 潤一郎

1 はじめに

本校は、NIE実践校としての指定を受け、2年目である。本校の児童の実態を調査したところ、家庭で新聞を日常的に読んでいるという児童がとても少ないということが分かっている。また、情報媒体としての新聞の良さを実感している児童の割合は低く、テレビやインターネットなどで手軽に情報を入手する方がよいと考えている児童が多いことも分かった。もちろん、テレビやインターネットのよさを否定するわけではない。しかし、新聞には新聞の良さがあるということに気づくことでさらに児童の知見を広げることができないのではないかと考えた。そこで、新聞を読むことに少しでも興味・関心をもてるようにしたいという目的で授業実践を行った。

2 実践状況

①5年生の実践

国語科 「俳句・短歌を作ろう」

写真記事をもとにして、そこから得た自分の感動を、俳句や短歌に表現するという活動をした。

- (1)新聞から、季節の風物を表した写真付きを探す。
 - ・自分のイメージが広げやすい写真を選ぶ。
 - ・自分で見つけられそうにない時は、グループの友達からアドバイスをもらってもよいことを伝える。
- (2) 写真記事をもとにして、そこから得た感動を俳句か短歌に表現する。
- (3) グループの友達と発表し合い、季節の確認や感動が伝わるかどうかについて意見交換し、加筆修正する。

(4) 台紙に記事を貼り、俳句や短歌を書く。

(5) 作品発表会をする。

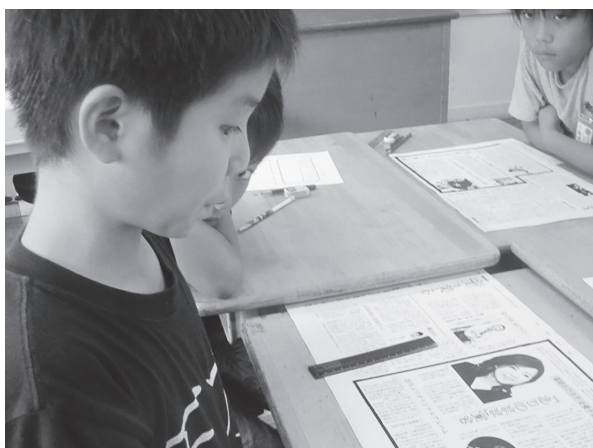


② 6年生の実践

総合的な学習の時間「夢を見つめよう」

働く人たちの様子を新聞から調べることで、将来の自分の仕事への意識をもてるようにしたいというねらいで授業実践を行った。

- (1) 職場見学を通しての感想を発表する。
- (2) 仕事をするために必要なことを考える。
- (3) グループごとに新聞記事から考える。
 - ・様々な職業についている方々の思いを知ること
 - ・どんな職業にも共通している思いを考
 - えることができるようにする。
- (4) グループごとに発表する。
 - ・グループごとに発表することで、児童の職
 - 業観・勤労観が深まるようにする。
- (5) 今の自分にできることを考える。
 - ・仕事をしている方々の思いを探ることで、今
 - 学校でできることを考えられるようにする。



3 授業を終えて(児童の様子から)

① 5年生 国語科「俳句・短歌を作ろう」

- ・新聞記事から季節の風物を表した写真や記事を意欲的に探していた。
- ・俳句・短歌づくりに楽しく取り組むことができた。
- ・友達がつくった作品のよさを感じることができた。
- ・新聞からたくさんの必要な情報を集めることができてよかった。

② 6年生 総合的な学習の時間「夢を見つめよう」

- ・新聞にはいろいろな職業で働く人たちの記事が書いてあることに気づいた。
- ・新聞記事から要点やキーワードを見つけられるようになった。
- ・新聞記事から様々な職業で働く人々の思いを知ることができた。
- ・将来の夢に近づくために、今できることを具体的に考えることができた。

4 まとめ

本校では、2年間N I E実践校として取り組んできた。普段馴染みの薄い新聞記事に少しでも興味をもって欲しいという願いのもと、授業づくりに励んできた。はじめはどのように記事を活用すればよいか困っている児童の様子も見られたが、徐々に新聞記事から必要な情報を見つけることに慣れてきて、新聞を読むことに興味をもてるようになった児童が増えたように感じている。今後も、新聞記事を有効に活用し、児童の知見を広げられるような授業作りをしていきたいと思う。

新聞を活用した国語の授業づくり

いすみ市立東海小学校 大高 純子

1 はじめに

本校はN I E実践校としての指定を受け、平成30年度で2年目である。1年目は全校児童が新聞に親しむための素地づくりに重点を置いた。新聞コーナーを作り、日常実践として学年の発達に応じた新聞の活用を行い、国語科を中心として言葉の力を身に付ける実践を工夫した。2年目は、新聞を活用した国語科の授業づくりに重点を置いた。校内研究の主題「よく考え、生き生きと表現する児童の育成」に迫るため、新聞を活用して自分の考えを伝え合う児童の育成を目指した。

2 実践内容

(1) 新聞に親しむための取り組み

本校は、新聞を取っていない家庭が半数近くあり、新聞を手にとることがほとんどない児童もいる。そこで、児童がよく利用する図書室前に新聞コーナーを設け、新聞に触れやすい環境を作った。図書委員が毎朝届く新聞をコーナーの机に並べた。また、およそ1か月分は机の下にストックして読むことができるようにした。ストックした新聞があることで、授業での活用が容易になった。

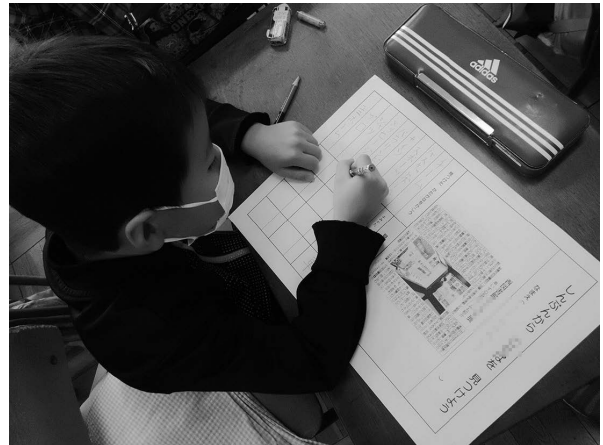
コーナーを設けたことで、児童は次第に興味を示し、新聞を手にとって読むようになった。

(2) 学年の実態に合わせた日常実践

昨年度に引き続き、学年の発達段階に合わせて日常実践を行った。

1年生では、既習のカタカナや漢字を見つけて伝え合う学習を通して、文字を読んだり書いたりする力の定着を図った。初めは文字を拾って読み、視写していたが、次第に単語で見つけるよう

になった。また、漢字ドリルで読み方を調べる児童もいた。既習の文字を見つけると、とても嬉しそうな様子で、学習の意欲が持続した。



2年生では、1年生と同じように既習の漢字を見つけるだけでなく、既習の文字を使った単語を見つける活動を通して言葉の力を身に付ける学習を行った。見つけた漢字や言葉で短文を作り、友だちと交流した。また、写真などに注目し、身近な新聞記事を、興味をもって見る様子が見られた。



3年生では、気になる記事を友達に紹介する活動を通して、新聞に親しむことができた。また、国語の授業と並行して、言葉集めを行った。難しい言葉は辞典で調べるなど、様々な語彙に触れることができた。



4年生は、気になる記事のスクラップを行った。特に、オリンピック・パラリンピックをテーマに関連記事を集めた際には、興味関心をもって意欲的に活動できた。



5年生は、気になる記事を友達と伝え合う活動を行った。身近な生活の課題となることをテーマに記事を探して読んだ。自分の生活と結びつけて考えることができた。



6年生は新聞記事の視写を行った。文章表現や

時事問題についての知識を広げることができた。また、「わたしの一押し記事」として気になる記事を探し、友達と紹介し合う活動を行った。一押しの理由を明確にすることで、伝え合う力が付いた。



(3) 新聞を活用した国語の授業

3～6年生で、国語の学習材として新聞を活用した授業づくりの実践を行った。

3年生では、「様子を表す言葉」「動きを表す言葉」「物や事を表す言葉」の3つに言葉を分類する学習をする単元において、新聞記事から言葉を集め、分類することで、応用・発展の学習材として新聞を活用した。まず、教科書で言葉の分類の基本を学習してから新聞で集めた言葉を使って分類を行った。やり方が分かると、児童は様々な言葉を分類することができた。教科書の例の他に、新聞から集めた言葉を扱うことで、様々な言葉に触れることができ、読んだり調べたりすることで言葉の力がより一層身に付いた。

4年生は、研究レポートを書く単元において、新聞を活用した。オリンピック・パラリンピックをテーマに関連する新聞記事を探して読ませた。児童の関心も高く、時期的にも多く取り上げられている話題なので、児童はたくさんの記事を集めることができた。教師見本のレポートにも身近な地域のオリンピックへの取り組みの記事を取り上げたことで、児童の関心をさらに高めることがで

きた。また、学校だけでなく、家から記事をスクラップして持ってくる児童もいた。レポートを書く際は、気になる新聞記事について友達と意見を交わしたり、記事を引用・要約して説得力のある文章にしようと工夫したりする様子が見られた。調べ学習の材料として新聞を活用したことは有効であった。

5年生は、よりよいくらしのための提案書を書く単元において、新聞を活用した。災害対策やいじめ問題など、自分たちの身近な生活に関連する記事を探して読み、グループで協議しながら提案書を書いた。自分の意見を述べる際に、新聞記事を拠りどころにし、賛成や反対の立場を明らかにして話し合うことができた。記事をしっかりと読み、気になる部分に印をしたり、読んで考えたことをメモしたりして自分の考えを明確にしていた。新聞記事を扱うことで、身近な問題をより誠実に考えることができた。

6年生は、スピーチ大会の単元に新聞を活用した。今現在自分の気になることをスピーチ大会で伝え合うことをテーマに、新聞記事を資料として活用した。新聞記事を複数読むうちに、自分の意見が次第にまとまり、スピーチの内容がより明確になっていった。また、より説得力のあるスピーチを行うために、聞き手に資料を提示すると効果的なことを学び、新聞記事をどのように提示したらよいか考えた。学習を進めるうちに、新聞記事を引用・要約することで、自分の意見がより説得力を増すことが分かり、新聞資料の必要性を感じ、積極的に必要な記事を探して読むことができた。スピーチ大会では、目的と相手意識を明確にもち、資料を提示しながら意欲的にスピーチできた。

3 成果と課題(まとめ)

○成果①(児童について)

N I E実践の2年目となり、児童の新聞への関心はより高まった。日常実践だけでなく、授業に新聞を活用したことで、児童は確実に新聞を手に取り、読む機会が増えた。また、既習の言葉を見つけて復習したり、社会の出来事に関心をもったり、新聞が自分の意見を述べたりすることなどに役に立つことを実感することができた。

○成果②(指導者について)

新聞を活用した学習活動や授業づくりについて、研修や実践を通して幅を広げることができた。児童が楽しく、充実感を味わって学習することができるようにするためには、児童の発達段階に合わせた記事を選び、実践を行うことが大切であると改めて共通理解できた。新聞は大変有効な学習材であることが分かった。

○課題

児童の実態に合わせた新聞記事を探すには、特に低学年の場合は難しかった。小学生向けの新聞をもっと多く活用する方が児童の実態に合わせた授業づくりができると感じた。また、新聞記事を読む時間をなるべく多く確保することも、児童が考える時間を確保することにつながり、より効果的な学習となることが分かった。

今後は、児童が新聞を読む工夫をさらに継続するとともに、国語だけでなく他教科の授業でも新聞を活用することを探究していきたい。

オリジナル新聞を作る

富津市立天神山小学校 植田 正代

1 はじめに

本校は、NIEに取り組んで2年目になる。本校児童は、学習に意欲的に取り組む。読書活動に対しては、学校での朝読書や読み聞かせには興味を示すが、家庭で自ら読書する子は限られている。

また、改まった場や急に振られた時などに自分の考えを他者に伝えることが苦手である。

そこで、国語科を通して『自ら学び豊かに語り合える子の育成』を校内研究のテーマに掲げ、学習計画に表現活動を意図的に入れるようにした。そのために必ず盛り込み、たくさん読み書くこと、多様な読み物を活用すること、大勢の場での発表の場面を増やすこと等に力を入れて取り組んできた。その一環として3年生から6年生が新聞を活用した。



2 実践内容

(1) 新聞を読んで自分の考えを書く

3～6年生は、個々に『新聞ノート』を作り、興味を持った記事を選んで貼り付けた。社会を賑わせたニュース、好きなスポーツ、読者からの文章などを選び、①読んでわかったこと ②記事に対する感想・自分の意見などを書いた。

授業の中で行うこともあるし、時間が取れない時には宿題として出した時もあった。3・4年生は、漢字や難語句など自力で理解できないこともあるので、親子で読むよう働きかけた。

いきいき学級(特別支援学級)の児童は、興味のある写真を探し、担任と一緒に読んだ。今年度は『こども新聞』(朝日・読売)も配られたので、取り組みやすかった。

現在は新聞を取っている家庭が半分くらいである。学校の中に数種類の新聞が置いてあり、児童が読みたい時に手にとって見られる・読めることで新聞に興味を持てた。また、高学年は物語とは違うリアルな社会の動きに興味を持つことができた。

(2) 新聞の比べ読みをする

3・4年生が取り組んだ。

国語の授業で、新聞の書き方、表現の工夫を学習し、単元のゴールを「新聞を作る」ことに設定し学習を進めた。

書く前に、いろいろな新聞を見比べて、同じテーマでも書き方が違うことに気づいた。自分の書きたいことは何か、そのためにどんな人に取材するか、どんな写真を載せるのか、どういう紙面構成にするのかなどを考え、新聞を作った。

比べ読みを通して、自分の書きたいことが何かはっきり方針を決めてから取り組まなければならないことがわかった。

(3) 夏休みの思い出を新聞にする

6年生が夏休みの課題として、『手作り新聞コ

ンクール』に応募した。

四ツ切画用紙1枚に、夏休みの思い出を写真・絵・文章でまとめた。家族で楽しんだこと、おいしかった食べ物、普段とは違う体験などを集め、紙面構成を工夫して取り組んだ。

写真を多用し、ビジュアル的にもきれいな作品が多かった。「文字がきれいだったでしょう」の賞に選ばれた児童もいた。

(4) テーマ新聞を作る

①5年生の取り組み

個々に関心のあるテーマで新聞を作った。複数の新聞からスポーツ(サッカー・野球など)に関する記事を選び、切り取って紙面構成をした。

同じ記事でも写真やリードなどが違うので、気に入った記事を選んだ。記事を読んだ感想を付け加えてオリジナル新聞にした。

②6年生の取り組み

学級8名が2グループに分かれ、それぞれテーマを決めて新聞を作った。スケート新聞・経済新聞である。

スケートはちょうどシーズンが始まったばかりで国際大会や国内大会などニュースになることが多かった。またザギトワなど話題の選手も多く、ほとんどの児童が興味を持っていた。

複数の新聞から記事を読み、主に気に入った写真で記事を選んでいった。

記事から読み取ったことを短くまとめ、自分の考えを書いた。

紙面構成も工夫し、自分が記者になったつもりで書いた後書きも見られた。

一方、経済新聞を作った児童は主に「日本経済新聞」から記事を選んでいった。ちょうど

消費増税が社会を賑わせている時期だったので、消費税に関する記事が多かった。また米中の貿易に関する記事も選んでいた。「必要だから消費税を上げるのに、そのために2兆円もの多くの税金を使っただけの増税緩和対策は変だ。」など鋭い意見が書かれていた。このグループは、内容的には社会科だった。

3 結果

○新聞が身近にあったことにより、社会のできごとに興味を持つことができた。

・休み時間に手にとって見ていた児童が何人かいた。家庭で新聞を取っていない子にとっては、学校に新聞があって好きな時に読めることがよかった。宿題にして親子で読んだクラスもあり、学校の教育活動の一環がわかってもらえた。

・朝の会でニュースを発表するクラスでは新聞記事を使ってみんなにニュースを伝えていた。テレビでは一瞬で終わってしまうが、新聞だとゆっくり読めるので、ニュースがよくわかった。



○新聞ノート作りにより、読み取ったことや感想を短くまとめる力がついた。

・まず写真や見出しを見て興味を持ち、リードで大まかな内容を理解した。リードは大事なことを短い文章でまとめるということで、国語の「書く」学習に生かされた。

○実際の新聞の紙面構成を活かし、オリジナル新

聞を作ることができた。

- ・興味のある内容を複数の新聞から選び、紙面構成をした。
- ・自分の感想や考えも付け加えてオリジナル性を出した。

○共通のテーマで1つの新聞を作ることを通して、協働学習になり異なる考えをすり合わせて1つの新聞を作ることができた。

- ・6年生のテーマ別新聞作りの取り組みでは、どの写真を使うか、どこにどの記事載せるか、誰が感想を書くのかなど話し合っていて進めていた。

4 まとめ (○成果 △課題)

○多様な読み物に触れる一環として新聞は有効だった。見出し・リード・写真があるので、どれを読もうか選びやすい。

○社会のできごとに興味のある子にとっては、一瞬で消えてしまうテレビニュースより、じっくり読める新聞の方が、詳しく多角的に理解できる媒体だった。朝の会でのニュース発表では、できごととそれに対する自分の考えをみんなに伝えることにより、表現力育成の一助となった。

○見出しやリードは、内容を短くまとめる学習に役立った。

△新聞を複数手に入れたかったのですが、3～6年生の取り組みにしたが、特別支援学級や3・4年生は、まだ自力で記事が読めないで、リードや写真が中心だった。担任が読んであげても難語句が多く、理解することは難しかった。

△新聞配達が2学期のみだったので、継続した取り組みができなかった。1年かけて行えば、もっと新聞に慣れ、比べ読みもスムーズにできたのではないかと考える。

△教師がもっと新聞を丹念に読んでいれば、社会

科や理科、道徳、総合学習の資料としても活用できたのかもしれない。

新聞に親しみ、多面的な見方・考え方を育てる

千葉市立大森小学校 山本 慧一・石井 樹里

1 はじめに

本校は、平成29～30年度の2年間、N I E推進の実践校として指定を受け、2年目の取組となる。一人一人が「わかる・できる」を実感し、生き生きと学ぶ子どもの育成を目指して日々の教育活動を行っている。

子どもたちは、日々の生活の中で、テレビやインターネットなどの媒体で情報を集めている。しかし、自分の興味あるニュースや事象ばかりをインターネットで検索していると、知識のバランスが偏ってしまいがちである。そこで、新聞を通して学習を進めることによって、幅広い情報と予期せぬ出会いを体験することができるだろうと考えた。新聞記事は幅広いテーマのニュースに触れており、それを活用した学習を通して、社会的事象に興味・関心をもち、多面的な見方・考え方を育てたいと考えた。

また、低学年の子どもたちにとっては、活字を深く読み進めることは、実態として難しい面もあるので、新聞の写真や文字などを使った遊びや体験活動を通して、新聞に親しもうとする態度を育てたいと考えた。

平成30年度は、校務分掌の中にN I E主任を位置付け、各学年の代表者をN I E推進委員とした。学年単位で計画し、実態に応じて、新聞を活用した学習の進め方や、朝学習の時間での新聞に親しむ方法を研究した。また、新聞に興味・関心をもたせるために、環境整備を行った。

2 実践状況

(1) 環境整備(掲示コーナーの設置)



校内でN I E教育を実践するにあたって、全校の子どもがいつでも新聞を閲覧できるように、「新聞コーナー」を設けている。図書室の中に新聞閲覧台を置き、毎朝図書委員会の当番が数社の新聞を台に用意している。また、掲示板には、学校職員が気になった新聞記事を定期的にスクラップし、意見や感想を書いて掲示するコーナーを設置した。新聞を身近に感じられるように環境整備を行った結果、休み時間などに新聞を読む子どもの姿が多く見られるようになった。

(2) 新聞を活用した学習活動

【第1学年図画工作科】

図画工作科「やぶいたかたちからうまれたよ」の学習では、紙を自由に破き、偶然にできた形から中心になる形を考え、表現したい物を絵に描いた。

初めは、新聞紙を自由に破いてよいということに、抵抗を示す子どももいたが徐々に慣れてきて、大きな紙を自由に破くことを楽しんでいった。



新聞で動物をつくる様子

創作に入る前に、新聞を眺めたり、記事を読んだりした。たくさんの新聞紙を見ることで、そこ

には文字ばかりの部分があったり、大きな写真のページや、時にはカラー写真のページがあったりすることに気付き始めるきっかけとなった。そして、新聞紙自体に親しみがなかった子どもが身近に感じる機会となった。そして、数名の子どもは写真の部分と文字が多い部分とを組み合わせ動物を作る姿が見られた。新聞のレイアウトを生かした作品づくりをすることができた。

【第2学年朝学習の時間・学活】



新聞から漢字を探している様子

朝学習や学活の時間に「漢字探しゲーム」を行った。新聞の1トピックの中から1・2年で習った漢字を制限時間内にたくさ

ん見つけて紙に書き出すという内容である。制限時間は、子どもがもう少し時間がほしいと思うくらいの「10分間」と設定した。見出しや欄外の日付などにも着目して、いろいろなところから漢字を見つけることができ、子どもは、意欲的に活動していた。

実践を通して、教室に新聞だけ置いておいても、あまり手にすることはなかったが、漢字探しゲームに取り組むことで、記事の内容にも興味をもって読んでいる子どもが増えた。実践後に、見つけた漢字をお互いに紹介し合うことで、今までに学習した漢字が想像以上にたくさん使われていることに気付き、漢字学習の大切さを実感した姿が見られた。

【特別支援学級生活単元学習】

昨年度は、新聞紙で自分の名前を見つけよう」「お気に入りの写真を紹介しよう」「知っている言葉を見つけよう」と活動を行った。活動を積み重ねるごとに記事の内容に触れられるようにな

り興味をもって新聞を読もうとする姿が見られた。本年度の実践の「見つけたよ！〇〇のニュース」では、自分たちが住んで



「しんぶんちず」を作っている様子

いる千葉県の記事に興味が高まったことから、新聞から都道府県名を探し、白地図の上に自分たちが見つけた記事を貼り合わせていくことで学級オリジナルの「しんぶんちず」を完成させた。次第に「友達はどうな記事を見つけているのだろう。」と興味をもつようになり、「お気に入りの記事を伝えよう」では見つけた記事について書いた自分の意見を友達同士で読み合い、感想を伝え合う活動を行った。

実践を通して、記事の内容を理解し、友達に伝えたいという思いや友達からの感想を楽しむに姿が見られるようになった。自分の意見に対して、友達から「おもしろい記事だね。」「わたしも驚いたよ。」など言葉を交わし合うことで、「次はどんな記事を探そうかな。」と意欲的に新聞を読むようになり、新聞に対する関心が高まった。友達と伝え合う活動を通して友達の考えや意見に触れ、物事に対していろいろな見方や考え方があることに気付くことができた。

【第3学年社会科】

社会科「農家の仕事」で新聞を活用した学習を行った。本学年の農家の学習では、「土気からし菜」を取り上げた。本教材は、300年前から続く地場野菜ということで、ニュースや新聞等のメディア、地域の広報誌等に何度か取り上げられており、掲載された新聞紙を持って来たのは学習中の子どもだった。新聞の内容は図1のとおりである。

図1 千葉南地域新聞(2019.2.1発行)



現状の問題点 からし菜の卸先 からし菜の特性

これらの内容をグループで読み取っていった。教師が口頭で論述するよりも子ども自身が調べ、分かったことを表現するという形をとったことで、関心・意欲面も含め効果的だったと考える。また、記事から現状の問題点を見つけたことで、「自分たちに何かできることはないか」という「いかす」につながる意見が導き出せた。学習では、他にも一般紙、緑区市政だより等を活用した。

【第4学年社会科・道徳】

社会科「わたしたちの県」の学習では、新聞記事から千葉県の市町村や日本の都道府県に関する記事を探した。南房総市で



千葉県のことを記事から探す様子

は、びわの栽培が盛んに行われていることや、北海道には大きな湖があることなど、様々な視点から千葉県や他の都道府県の特徴について考えた。新聞記事の中に、学習した市町村名や都道府県名が書かれていることに気が付き、子どもたちは喜んで見出しや記事を読んでいた。読んだ内容に対する考えや思ったことを書き、既習の千葉県の土地利用や産業、都道府県の位置の学習の理解を深め、関心を高めた。

道徳「よりよく生きる喜び」の学習では、読売新聞のNIEガイドブック「道徳に新聞活用」から、パラリンピックで違いがあっても前向きに生きる選手に関する記事を読み、選手の気持ちや自分の気持ち、使われている言葉について考えた。

「障壁」や「障害」という言葉について深く考えるとともに、「自分自身であるために」どのように生きていったらよいか、登場する人々の姿や言葉を参考に自分の考えを書いた。「わたしも怖がらないで、何事にも挑戦していきたい。」「壁にぶつかったとき、言い訳をしないで行動していきたい。」などと、新たな思いをもった。

【第5学年国語科】

国語科「多様な情報を読み取り、自分の考えを深めよう」の学習で新聞記事を資料として扱った授業を行った。この学習



新聞記事をもとに意見文を書く様子

は、新聞記事を根拠に自分の考えを整理して、消費税増税に対する意見文を書くことをねらいとした。2019年10月から消費税率10%への引き上げが施行予定であることに関連する新聞記事を数社から数種類を教員が集めた。子どもたちは、新聞記事によって消費税増税に対する考えが異なっていることに気付き、多面的に事実を読み取り、消費税増税のメリットとデメリットを考えることができた。そして、一人一人が自分の考えをもち、新聞記事を引用して意見文を書いた。

【第6学年朝学習の時間】

一つの事象を多面的に見る意識を育てるために本実践を行った。新聞記事を読むことを通して、事件や事故、犯罪などには、必ず加害者と被害者がいることや、自分にとって嬉しいことだとして

も、他者にとっては悲しいことだ
てあることを子どもに
捉えさせることをねらい
とした。



新聞記事をもとに話し合う様子

まず、様々な新聞
記事を読み、立

場によって気持ちが異なることを学んだ。また、
それらを友達と話し合っ
て自分と他者の考えを比
べ合うことで、新聞に書
かれている記事の内容を
捉えさせていった。

初めは、教師から新聞
を読む視点を与えるこ
とが多かったが、次第に
自分から物事を多面的
に見る力が身に付いて
きた。学習後は、新聞
記事だけでなく、日常
生活の中でも物事をい
ろいろな視点から捉え
ようとする子どももい
た。このように、新聞
記事を通して物事を深
く捉えさせることは、
思いやりの心を育むこ
とにも繋がっていくと
思われる。

3 まとめ

本校の実態として、家
で新聞を定期購読して
いる家庭があまり多く
ない中で、普段、新聞
に触れることが少ない
子どもたちに、校内に
新聞を自由に読む環
境を作ることにより、
新聞を身近に感じ、
社会的事象に興味・関
心をもつことができた。
また、昨年度に引き続
き本年度は、教科の枠
を超えて、新聞を活用
する学習活動を多様に
取り入れることができ
た。

低学年や特別支援学
級では、新聞を使った
遊びや体験活動を取り
入れた実践を行ったこ
とで新聞そのもの



や、その記事や写真に
親しむことができた。
新聞

に触れる機会を多くし
た結果、学習時間外や
家庭でも新聞に触れる
子どもが多くなった。

中・高学年では、
新聞記事の内容をよく
読み、社会的事象に
興味・関心をもち、
自分の考えに取り入れ
表現



したり、新聞記事を
白地図にまとめたり、
新聞記事に対する意見
や考えをもとに話し
合ったりすることが
できた。実践を通して
、新聞記事からさま
ざまな事象を知り、
多様な考えがあるこ
とを読み取り、身近
な出来事に対して理
解を深めることが
できた。また、新聞
記事を資料として扱
うことにより、情報
から自分の考えの根
拠となる情報を選
ぶ力や、多面的な見
方・考え方が育った。

今後の課題として、
各教科等の学習内容
の見方・考え方が育
つような実践例を考
えていく必要がある。
また、本年度実践し
た内容を来年度以降
も活用できるように
引き継ぎや資料保存
を行っていくように
する。

「新聞を活用した授業づくり」をめざして

睦沢町立睦沢小学校 大塚 久美子

1 はじめに

睦沢小学校は、本年度からN I E教育推進の指定を受け、本年度が1年目の取り組みとなる。新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」において、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の具体的な方策として「カリキュラムマネジメント」がある。そこで、その一部を実践として以下紹介することとする。

2 実践内容

(1) 低学年の取り組み

<新聞と仲良しになろう>

国語科の「自動車くらべ」の学習における自動車新聞作りを行った。新聞の中からの言葉集めを行った。

国語科の「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」の学習における説明書作りを行った。生活科の学習の中で新聞を活用して、季節探しや町の様子探しを行った。

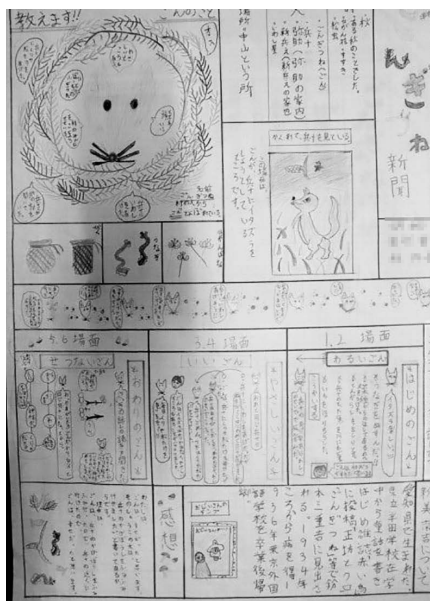


(2) 中学年の取り組み

<新聞を知ろう・学ぼう>

国語科の「こまを楽しむ」の学習の中で報告文の書き方の参考に新聞を活用し写真や絵の取り入れ方を明確にした。

国語科の「アップとルーズ」の単元で新聞の記事を活用しての新聞作りを行った。同じ記事でも新聞によって写真の撮り方が違うことに気付くことができた。社会科の「郷土を開く」の単元では、紙面割りを学び新聞の作成を行うことができた。



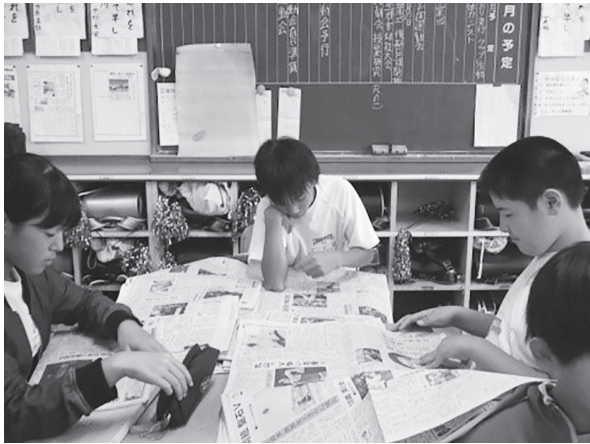
(3) 高学年

<新聞を活用しよう>

社会科の「私たちの生活と工業生産」の学習では、新聞の活用を行ったことで時事ニュースに興味を持つ児童が増えた。

「今日のおすすめの記事」を六年生がコメントをつけて掲示することで、新聞記事に興味を持ち、自ら新聞を手にする児童の育成につながった。国語科の「自然に学ぶくらし」の単元で新聞

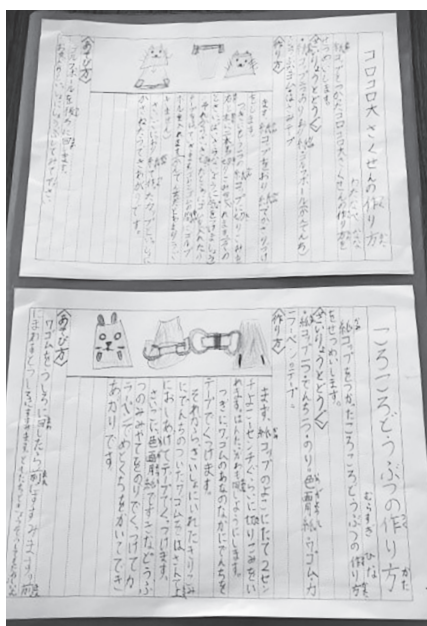
からの事例探しを行うことができ、内容の理解が深まった。また、年間指導計画に効果的な新聞活用を位置づけ授業づくりに取り組んできた。



3 まとめ

低学年では、生活科の学習で、季節を感じる写真を探す活動を、中学年では、国語科の学習で新聞の写真の掲載の仕方から、書き手が伝えたい思いを読みとった。高学年では、世界で起きている出来事に目を向け、同じ記事でも書き手によって書き方の違いに気づくことができた。

今後も新聞を有効的に活用する学習づくりに取り組み、「なぜ。どうして。」を探求できる児童の育成を目指していきたい。



新聞に親しもう

市原市立清水谷小学校 阿部 広樹

1 はじめに

本校は平成30年度よりN I E実践校の指定を受けた。1年目となる本年度はまず、「新聞に親しむ」ということをテーマとして、環境作りを中心に、児童へのはたらきかけを行うこととなった。

2 実践内容

(1) 新聞が身近にある環境作り

本校では、昇降口と図書室に、新聞閲覧台などのコーナーを設置し、児童が各社の新聞を手にとって目を通すことのできる工夫を行った。



また、社会の耳目を集める話題性のあるニュースについては、掲示板に張り出すように努めた。新聞を通して、児童が社会のできごとに興味を持ったための手立てである。そして、図書室にも新聞を常備し、調べ学習などにも生かすことができるようにした。

(2) 朝のスピーチでの活用

本校では、毎日の日直が朝の会でスピーチを行っている。話すテーマは学年・学級で設定することも多いが、高学年になると社会のできごとを

話題にする児童も多い。そのような時に新聞を活用してもよいことを児童に伝え、積極的に新聞を手にとることができるような指導を行った。

(3) 新聞作りのアイデアを参考にする

社会科や総合的な学習の時間では、調べたことを、他者に伝えるために新聞を使って発表することが多い。まとめの際には、本物の新聞を参考に「見出しの工夫」や「レイアウトの仕方」を学習しながら、まとめる活動を行った。

3 結果

(1) 新聞が身近にある環境作り

休み時間に新聞を手にとる児童の姿が多く見られた。友達同士で新聞を見ながら、社会のできごとについて会話している姿は、新聞を手にとることのできる場所にあったからこそであるように思う。また、児童の中には気になった記事をまとめて、校内で紹介しようと自発的に動き出した児童もいた。

授業や休み時間の時に話題になった事柄について、自分から新聞で確認するために図書室を訪れる児童も表れ、いつも決まった場所に新聞が置かれていることが児童に少しずつ浸透してきた。

(2) 朝のスピーチでの活用

記事を活用することで、「いつ、どこで、誰が、何をしたのか」といった場面や状況を正確に伝えるための話型を自然と身に付けることができてきた。また、「そのできごとは今後、何にどのように影響するのか」ということについても新聞記事

をもとに話すことのできる児童が増えつつある。

(3) 新聞作りのアイデアを参考にする

総合的な学習の時間を中心に、自分たちが調べたことを新聞にまとめる際、本物の新聞を参考に見出しや構成を工夫し、わかりやすくまとめることができた。

4 まとめ

それぞれの活動を通して、新聞を身近に感じることのできる児童が増えていることについては大きな成果である。日常の教育活動に、意図的に新聞を活用していくことで、児童の語彙力や読解力に大きな効果があることもわかってきた。しかし、まだまだ工夫の余地はある。学習のどの場面でどのように活用することが、新聞の持つ教育的な価値を最大限引き出すことができるのかを考えながら、さらに実践を重ねていきたい。

「新聞を校内の活動に活かす」

船橋市立芝山中学校 駒野 和典

1 はじめに

「今日の新聞記事見た？ どう思う？」そんな会話から始まる一日を積み重ね、将来的には、主権者として自分の意見が言えるようになるために、本校は昨年度からN I E教育に取り組み始めました。主に以下のような点を意識しながら進めました。

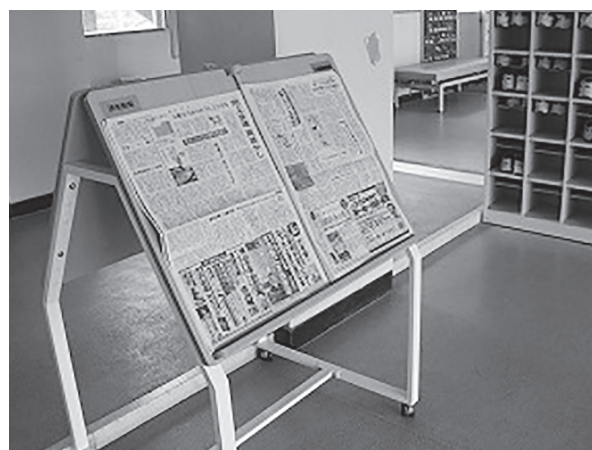
昨年、N I Eの研究を始めるに当たって、本校では、社会科教育で重視されている主権者教育とどう結びつけていくか、また、毎日配布されている新聞を学校現場でどう生かすか、そして船橋全体の主権者教育の向上に結びついているかの3点について考え取り組んできました。

船橋市では、各クラスに新聞が3紙(朝日・毎日・読売)配布されていますが、これを活かすために何ができるかがスタートでした。そこで昨年度市内各校に実態調査を行いました。船橋市社会科部会に協力していただき、「新聞を使った教育(N I E教育)に関心がある」のは「少しある」も含めて15校、「あまりない」は7校でした。この実態の改善を求めることが大切であると思い本校の研究を進めてきました。本年度は、研究校として、自主公開という形で研究授業を行い、内容は、地元の重大ニュースとして新聞にも大きく取り上げられ、現在も発掘作業などが行われている「取掛西貝塚」を題材とした歴史の授業でした。

2 実践状況

昨年度までの取り組みとして、本校は、具体的には今まで閲覧台の有効利用や図書室の有効活用、N I Eコーナーの設置、色々なジャンルの新

聞作りなどの研究を進めてきました。今でもN I E委員となった社会教科リーダーの仕事は、毎朝、新聞を教室に持って行くことと、設置してある閲覧台の新聞を交換することから始まります。閲覧台は、各学年の昇降口に設置され、生徒は、朝登校すると、まず1面記事を目の当たりにします。その他にも閲覧台は、校舎内の7カ所にあり、新聞記事が自然と目に入るようになっています。1週間の1面記事を貼るN I Eコーナー作りもN I E委員である社会教科リーダーの仕事です。



図書館では、座ってじっくり読めるスペース作りや、写真にあるような、ニュース記事の関連本の紹介コーナーを設けていたりもします。各紙を比較して見られるコーナーを作り、正しい判断ができる情報リテラシーの教育も重視しています。

また、校外学習では、個性的な新聞作りに尽力し、新聞コンクールにつなげています。例年、校外学習後の新聞作りでは事前調べ、現地レポート、編集後記まで一貫して全員が分担し作成するやり方で行っています。生徒全員で審査し、それぞれの特徴を認めながら表彰する独自のやり方を取っています。一方、1年生は、個人の新聞作り

を多く行いました。目的・内容に応じて取り組みを変えることも大切であると考えています。



今年度は、7月の自主公開の授業研究で、前述のように取掛西貝塚を扱った授業を行いました。理由は、これが昨年度新聞記事にもなった地元の重大ニュースであったからです。

芝山中がこの貝塚の授業研究をすることは使命のように感じたからでもあります。そしてこれだけ地元のニュースで大きな出来事であっても、生徒の関心はどうであったのかもよく調べ、新聞の役割、現実も考えられる機会にしようと考えました。そこで、「取掛西貝塚のニュースは、生徒たちにどう流れたか？」を生徒にアンケートで調べてみたところ、結局、生徒たちの新聞への関心の低さが浮き彫りになりました。

生徒は新聞記事になった地元の重大ニュースを知る機会を得ておらず、新聞があっても見ていない。知ろうとしていない。情報が届いていない。

でも、今回、授業研究にあたり、あらためて、この貝塚は学術的には現在最も貴重な貝塚であると認識しました。我々も研究を深め利用していくべきであると考えています。

社会科部会で研修テーマにもなった博学連携も意識して、飛ノ台史跡公園博物館との連携を試み、ご協力をいただきました。

1年全クラス一斉の授業展開とし、その中でゲ

ストティーチャーとして飛ノ台史跡公園博物館の学芸員の方に助言をいただくなど博学連携の形式を取りながら、授業を作り上げていきました。

3 結果

昨年の実践からの生徒の変化では、本年度の生徒アンケートで「朝、新聞が昇降口にあることであなたに変化はありましたか？」と聞いたところ、1年生は、大いにあった10名・少しあった51名・ない17名と答えました。2、3年生はこれより下がりますが、「朝ニュースを知れる」「話しについて行ける。」「ニュースに強くなった。」「新聞をよく見るようになった」「新聞に興味があった」「読み方を学ぶ」「世界を知るきっかけになった」「ニュースを見る回数が増えた」等々の効果が見られるようになりました。

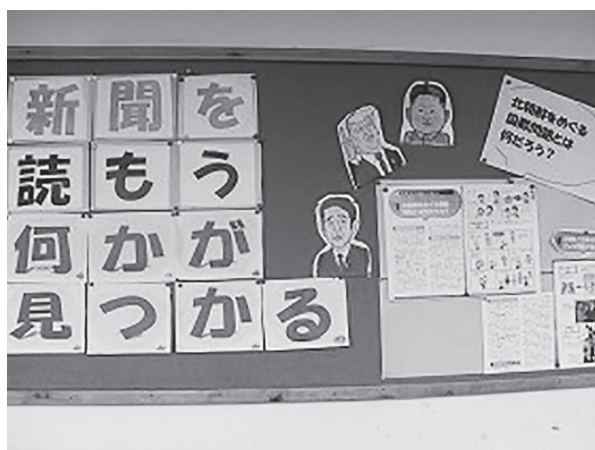
一方、研究授業は、本当に身近な地域の学習であったり、自分で見た経験を持つ生徒が多いことも相まって、生徒たちの率直な意見・質問が多く飛び交い、学ぶ姿勢を引き出す良い授業になりました。普段からこのような授業ができるよう努力しているつもりですが、今後も新聞を使った、このような授業を多く工夫し創造していきたいと考えています。

4 考察

船橋市内でも配布された新聞自体は、各校であまり有効に使われていない実態があります。そして活用方法がわからない学校も多い感じがしますが、社会に限らず国語・理科・道徳・学級など活用範囲を広げようとする必要があります。現状を打開するために少しでも学校全体で活用方法を学ぶ雰囲気を作ることが大切であると思います。

5 まとめと課題

決して高い数字ではないが、生徒には、新聞が社会事象に対する関心に高まりを感じられます。特に1年生は入学時から整備された環境の中で生活し、今では、自分で朝、新聞を確認し授業などにおいて発表力の向上に結びつけており、他の生徒たちも朝の1面記事を見たことが話題になることがよくあります。



NIE教育に関連した授業は、アイデア豊かに新聞を書かせる手法と、生の新聞を使って授業などを行う手法の2点に大きく分かれる。前者に於いては、各学年とも校外学習以後の新聞作成の取り組みに工夫を持たせており、指導方法も学んでいるところです。現在、各学年ごと工夫した校外学習新聞の掲示を行っている。記事を使った授業も社会科だけでなく各教科、道徳、総合(進路など)にも利用され始めており、今後多くの教科で新聞利用の幅を広げたい。

しかし、実態調査にあるように新聞にまったく興味なく通り過ぎてしまう「ない」という解答もまだまだ多く、今後の課題になっています。

この研究が広がりを見せ、新聞への生徒の関心が高まる良いきっかけになればと考えています。

「生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成」

N I E活動を通して、大人になるための学校

松戸市立新松戸南中学校 山川 知玄

1 はじめに

本校の学校教育目標は「心豊かで正しい判断力と実践力を持ち、主体的に学ぶ生徒の育成」であり、学校教育目標の達成のため、校内研究テーマとして「生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成」を掲げ、校内で研修を進めている。また本校は昨年度からN I E教育推進校の指定を受け、本年度が二年目の取り組みとなった。

本校では、各月に二紙から三紙の新聞をとっており、職員室においておき、各教師が新聞のコピーをとるなどして、教材として扱っている。ここでは具体例として、今年度の国語・社会・道徳での取り組みについて取り上げる。



2 実践状況

①社会科での取り組み

社会の授業では、複数紙の1面を見比べ、同じ事象に対して、見出しにどのような違いがあるのかを見比べ、主張にどのような違いがあるかを調べたり、同一日で取り上げる1面記事にどのような違いがあるのか新聞社ごとに比較したり、市況欄を参考に自分が投資家であったら、どの株を購入するか考え、1週間後の新聞記事から、その株

を買って得になったか考えるなど、株価のしくみについて学んだりした。



②国語科での取り組み

国語の授業では、新聞記事から三字熟語を見つけ、熟語のしくみについて学んだ。

③道徳での取り組み

道徳の授業では、読者投稿欄を取り上げ、世間の様々な考え方や価値観に触れることにより、世間の様々な諸問題について他人事ではなく、自分のこととして考え、自分の価値観の形成、深化に役立てた。



3 結果

①社会科での取り組み

社会的な事象について、リアルタイムで取り上

げられるようになったため、時事の話題に敏感になった。その時々ニュースなどについて、教室でニュースや時事問題について会話をしている様子が増えた。

また、家庭では一紙しか新聞を購入していない家庭が大半であり、複数紙を比較する機会にはなかなか恵まれない。そのような中で、複数紙を比較して、その違いを検討することで、メディアリテラシーの力を養うことができた。

②国語科での取り組み

形式的で説明に終始しがちになりやすい熟語のしくみの単元だが、新聞という生きた教材を取り扱うことで、熟語の構成について身近に感じ、知識の定着を図ることができた。



③道徳での取り組み

自分の生活に関わる出来事に関して、自分とは違う立場の人たちの多様な意見があることを知り、学校の中でだけ考える道徳より、視野の広い授業を行うことができた。また、他人事のことでなかなか自分のことと感じにくい道徳の授業であるが、自分の同世代の人間の投書を見て、自分に関係することだと切実に捉え、授業に参加することができた。

4 まとめ

新聞は多様な情報が集積されており、今回は三教科による取り組みしか報告できなかったが、他

の教科でも利用の余地はあり、今回取り上げた教科でも他に多様な利用の仕方があると思う。いずれにしても、即時性があり、生徒の生活に寄り添っており、生徒にとって身近に感じやすい題材を選べることは大きな強みである。



今後も新聞の教育への活用について、様々な可能性を探っていきたい。

職員室から広がるN I E活動

旭市立千潟中学校 杉山 耕一郎

1 はじめに

本校は千葉県東部に位置する旭市の中学校である。全校生徒132名の小規模校で、保護者は農業に従事している者が多く、学校に協力的な風土である。

学校教育目標は『主体的に生き生きと行動する生徒の育成～生徒一人一人が自ら考え判断して行動できるよう指導・支援に努める～』であり、その目標を具現化するための具体策の1つとして、N I E活動の充実が位置づけられている。平成29・30年度とN I E実践校の指定を受け、本年度が2年目ととなり、様々な取り組みを行っている。

2 実践内容

(1) 教職員から発信するN I E活動

本校は農村部ではあるが、新聞を家庭でとっていない生徒が学級の1割程度いる。また、教職員の中にも家で新聞をとっておらず、インターネットで時事的なニュースをチェックしている教職員も増えている。そこで、教職員自らが、新聞に親しむきっかけを作り、それを生徒たちに広げることにはできないかと考え、昨年度から継続して取り組んできた。

*新聞コンクールの活用

①朝、学習図書委員の当番の生徒が昇降口前に全ての新聞の1面を掲示する。

【登校時に全生徒が1面を目にすることになる。社会科の授業がある日には、自分が気になった1面の見出し・内容・記事に対する自分の意見をノートに書き留める活動を実施し

た。

それらの活動によって、ニュースが身近になり、休み時間の生徒どうしの会話にも新聞記事についての話題が出るようになった。】

②1時間目の休み時間に、学習図書委員の担当教師が、職員室に新聞を運び、空き時間の教職員が閲覧できるようにする。新聞の閲覧場所には付箋を置いておき、教職員が生徒に読んでもらいたい記事に自分の名前を書いた付箋を貼るようにした。付箋を貼る条件は、

ア. 自分が担当する教科に関する記事

※自分の担当する教科名を付箋に書く

イ. 中学生に読んでほしい記事

※〇〇先生のおすすめと付箋に書くとして、全教職員が1日1つ以上の記事に付箋をつけてもらえるように呼びかけをした。

③昼休みに学習図書委員の当番の生徒がN I E教室(1週間の新聞を全て閲覧できるようにした新聞閲覧室。休み時間や昼休みに全校生徒が自由に閲覧できるようになっている)に付箋がついた新聞を運び、閲覧しやすいように並べる。

ア. 新聞コンクール応募のために活用

週に1回N I E教室に行って、取り組む。

・記事を切り取り、印象に残ったところに線を引く。

・応募用紙に新聞記事を貼り、記事への感想や自分の意見を書く。

・週末に家族の意見を聞いて、その意見をまとめてくる。

・月曜日の朝に、各クラスの国語または社会科の教科係が回収し、担任に提出する。担任は確認した後、返却をする。

・その週の帰りの会で自分の意見を発表する。

※1日1名～2名

・良くまとめられている生徒のワークシートは第1多目的室に掲示。

【コーナー作成・ワークシート掲示

：各クラスの学習図書委員】

・1・2年生は3年生のワークシートを見て、定期的に印象に残った先輩に対する感想を用紙に記入する。

※残りの生徒のワークシートはN I Eファイルに綴じ込む。

⑦クラス代表の生徒は、水曜日の昼の放送で自分の意見を発表する。



(2) 表現力を高めるためのN I E活動

*読売ワークシート通信を活用しての取組

※読売新聞などの記事の抜粋に、問題と解答記入欄がついたワークシート教材。

①毎週水曜日に8つの記事が配信される。

②各クラス学習図書委員の代表が集まり、配信された記事から、係の生徒が決定し、印刷する。

③金曜日の7時50分までに各クラスの世界科の教科係が、職員室前ロッカーからワークシート教材を教室に持っていき、配布する。

④金曜日の朝読書の時間(7時55分～8時15分までの20分間)にワークシートの設問に回答するとともに、裏面にその新聞記事について自分がどう考えたかについて200程度でコメントを書く。

⑤金曜日の朝読書の時間に終わらない生徒は、週末の宿題とする。

⑥月曜日の朝に、各クラスの世界科の教科係が回収し、担任に提出する。担任は確認した後、クラス代表を1名決定する。

⑧代表生徒のワークシートは第1多目的室に掲示する。

※コーナー作成・ワークシート掲示：

各クラスの学習図書委員

3 結果

(1) について

取り組みが2年目になり、新聞に目を通すことが習慣化してきた教職員が増えてきた。また、教職員が新聞をしっかりと読むことで、普段の授業に新聞記事を取り入れたり、定期テストで時事的な問題を出題する教科が増えてきた。その結果、生徒も時事的な事象に興味や関心を持つことができるようになってきた。

(2) について

昨年度に引き続き毎週全校生徒が、1つの記事について意見を書き、各クラスの代表が昼にその意見を発表し合うことで、自分の視点との共通性や相違性に気づき、新聞記事を多角的・多面的に捉えることができる生徒が増えた。全校生徒が1回は発表する機会があったので、普段の授業でなかなか発表できない生徒も発表することとなり、

その自信が普段の授業の発表へとつなげることができてきた。また毎週新聞記事への意見を全校生徒が書くことで、読む力や書く力の向上につなげることができた。

4 まとめ

1年目に教職員が中心となっていた活動を、係の生徒を巻き込んで行う活動を増やしたことで、より生徒が主体的に取り組むことができた。特に学習図書・NIE委員が中心となって活動をしてきたので、委員会の生徒が中心となって、NIE教室に積極的に足を運び、新聞記事に目を通す生徒が増えてきた。

社会的事象に興味を持たせ、情報収集能力と活用能力の育成をめざす NIE 活動

山武市立蓮沼中学校 千田 賢弥

1 はじめに

本校は千葉県東部の九十九里浜に位置する全校80人の小規模校である。温暖な気候で風光明媚な自然に囲まれ、地域の方々に支えられている学校である。

本校の教育目標は「自ら学ぶ 心豊かで たくましい生徒の育成」である。そして、この目標を達成するために確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランス良く育成するように取り組んでいる。本年度の校内研究テーマは、「主体的に学ぶ姿勢と確かな学力の育成を目指した授業づくり」であり、教員の指導力向上に重点を置いた取り組みを推進している。

平成29・30年度NIE実践校としての指定を受け、全職員で実践を行った。テーマを「社会的事象に興味を持たせ、情報収集能力と活用能力の育成をめざすNIE活動」として、新聞8紙から2紙を組み合わせて年間を通して使用し、社会的事象に興味・関心を持たせる活動を中心に行った。

2 実践報告

(1) 新聞閲覧コーナー設置(通年)

社会的事象に興味・関心を持たせるために、新聞を自由に閲覧できるコーナーを視聴覚室前の廊



下に設置し、新聞の第1面が目にとまるようにした。また、夕刊のコラムも利用して、政治・経済だけでなく幅広い分野への興味・関心が高まるようにした。

視聴覚室前廊下以外に、2階の踊り場にもコーナーを設け、NIE担当が毎日記事を選び、生徒が閲覧できるようにした。

(2) ワークプリントの活用(推進期間)

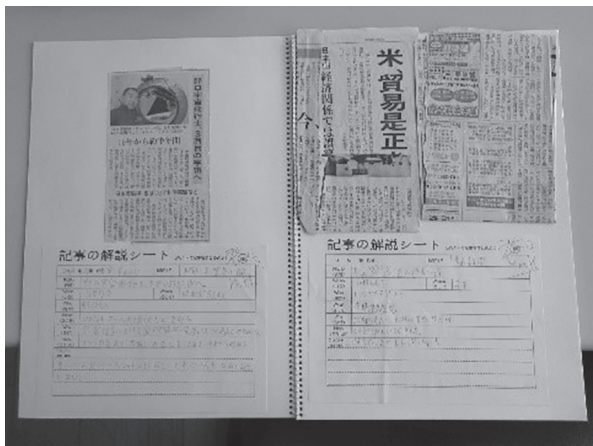
新聞記事を読んで思考力・表現力を向上させるために、担当職員の選んだ記事を基にワークプリントを作成した。ワークプリントを生徒が読み、感想や意見を書き、職員が交替でコメントを入れる活動を実施した。担当職員は、毎日旬の記事を生徒に提示していた。全校生徒が同じ記事を読むことにより、活発なコミュニケーションが行われた。職員もワークプリントを通して生徒の考えに触れ、これまでと違う一面を知ることができた。



(3) 新聞記事のスクラップ(推進期間)

推進期間の10・11月に8紙を利用して、各クラス2名の担当者が、当日の新聞から記事を抜き出してスクラップする活動を行った。閲覧コーナーの時は2紙のみであったが、8紙の記事を比

較することにより、各新聞社の主張の違いを見つけ、自らの意見としてまとめられるようになった。

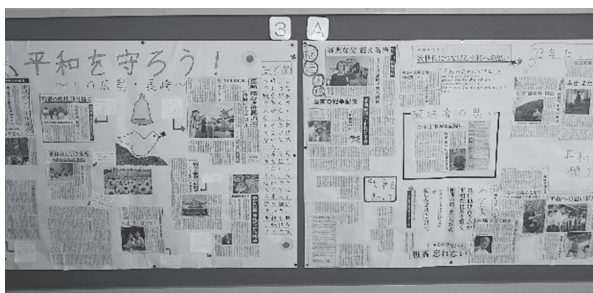


(4) 授業での新聞活用

社会的事象への興味・関心を持たせるために時事問題を取り上げ、社会科で新聞の第1面を題材にした小テストを毎週実施した。初めは興味・関心の低かった生徒が、徐々に興味・関心を示すようになり、時折自宅で新聞を見てくる生徒も出てきた。

(5) 平和教育との関連

本年度は平和教育と関連させ、NIE活動を推進してきた。生徒に平和に関する記事を集めさせ、平和新聞を作成し、それを基に平和集会で「平和を実現するために今何ができるか」について意見交換をした。



生徒だけでなく、保護者や戦争体験者、戦争の語り部であるピーススタッフの方を交えてのパネルディスカッションも行い、生徒は戦争を語り継ぐことや人を思いやることが平和な日本をつくることにつながるという考えをもつことができた。



3 まとめ

(1) 成果

2年間の実践で生徒は新聞を読んだり、疑問に思ったことを調べたりするなど、社会的事象への興味・関心はNIE活動を始めた頃より高まってきた。また情報収集能力についても、平和新聞では、新聞からテーマに沿った記事を選び、必要な記事と不必要な記事を取捨選択し作成することができた。さらに推進期間中に多くの新聞を読んだことで、社会的事象への自らの意見・考えを持てるようになり、活用能力も身につけてきたように感じている。

(2) 課題

2年間の実践で地域と関連した活動を行うことができなかった。今後は、新聞を使い生徒の住む地域の実態や課題を知り、その課題を解決するために何ができるか考え、意見・考えを発表する活動を行う必要がある。このような活動で、更に情報収集能力と活用能力が高められると考える。そのために今後も生きた教材である新聞を使い、活動や授業を行っていきたい。

主体的に話し合い，他を受容できる生徒の育成

富津市立大貫中学校 山崎 康成

1 はじめに

本校は、房総半島富津岬の南部に位置し、美しい海と山など、豊かな自然に恵まれている。学区西部は東京湾に面した漁村地域、東部は鹿野山山系に接する農村地域、中央部はJR大貫駅を中心に商店・家屋が密集した地域である。学区の人々はふるさとの将来を担う子どもたちを育む教育に関心を寄せており、生徒を見守る姿は大変温かい。

学区の見直しに伴い、来年度4月から近隣の中学校との合併を控えており、両校で共通した教育の実践を進めているところである。

本校の学校教育目標は「研志 学んで聴く心豊かに体は逞しく」である。知徳体のすべての面で、自分らしさを発揮出来るようにという願いがある。その達成のための本校におけるNIE教育のねらいは以下のとおりである。

- (1) 生徒が新聞を閲読することで生まれた意見を元に、主体的な話し合い活動が出来る集団を育てる。
- (2) 他の生徒の考えに触れることによる共感的な人間関係を育てる。

正解のない話し合いをする過程は、生徒達の多様な意見を生み出す。「自分の主張を通したい」でも「聞いてばかり」でも、どちらでもない。「自らの意見を主張しつつ、他者の意見を取り入れる部分は取り入れる」ことで、上記(1)(2)に掲げる生徒の育成が図れると考える。

- (3) 新聞を教育活動にいかに関活用するか、教職員の研修の一つとする。

教師の見聞の広さにより、生徒に多くの情報を伝えることが出来る。教師の力量を高めることだ

けでなく、キャリア教育にもつながると考える。

指定2年目となり、昨年度の取り組みよりも質の向上を目指して行われることが必須だと考えた。昨年度同様、手軽に新聞を手に取り、興味を持ち、その日の新聞もそれ以前の新聞も読むことが出来るような空間づくりを工夫した。

2 実践

- (1) 全職員(主に学級担任)【全教科領域に渡る朝のNIE】(1～3学年)

- 新聞社から配信されるワークシートに取り組む。
- 朝の会の前の10分間実施(木金曜日)。
- 個々の生徒のペースに合わせて設問を解き、答え合わせ。意見を書くような設問の場合は、学級担任がコメントをする。
- 内容がタイムリーなため、時事の流れを知ることができるようになった。
- 熟読することで回答可能な設問を設けたため、生徒の新聞閲読習慣が付き、新聞に興味を持つ生徒が多くなった(全校の62%の生徒が「興味を持つようになった」「少し興味を持つようになった」と回答)。

- (2) A教諭【数学】「確率」(2学年)

- ①導入
 - 教師の発問
 - ・「確率」ということばは、日常の中でどのような場面で使われているだろうか。
 - 生徒の意見
 - ・「降水確率」「宝くじの当選確率」「合格する確率」「打率」等



② 深める学習

ナンバーズ宝くじにおいて、ナンバーズ3、ナンバーズ4の仕組みを用い、ナンバーズ3と4では、いかに確率が違うかを実感させた。アメリカの男性が宝くじで2億7300万ドル(約304億円)を当てた記事を用い、選んだ6個の数字がすべての中する確率について考えさせ、理解を深めさせた。

(3) B教諭【道徳】「大相撲横綱稀勢の里 引退」に関する資料を作成(2学年)

○教師の発問と生徒の反応

問) ケガを抱えた状態で勝負に挑み、優勝した時の気持ちはどうだっただろうか。

答) 「ホッとした」「感謝でいっぱいだった」

問) 19年ぶりの日本出身横綱としてのプレッシャーを抱えながら連続休場した時の周囲の目と本人の気持ちはどうだっただろうか。

答) 「地元の人たちは温かく見守っていらすが、マスコミ等が過度な報道をしているのではないか」



「大きな期待に耐えられなかったのではない

か？」

問) 「一片の悔いなし」の言葉に隠された思いはなんだろうか。

答) 「すべてを出し切り、後悔はない」

「自分の判断は間違っていなかった」

「悔いがないはずなどない」

○生徒の感想

- ・様々なプレッシャーの中での戦いだったことがわかった。
- ・責任感のある人だったのだろう。
- ・親方として頑張ってもらいたい。応援する。

(4) 第1学年【総合】

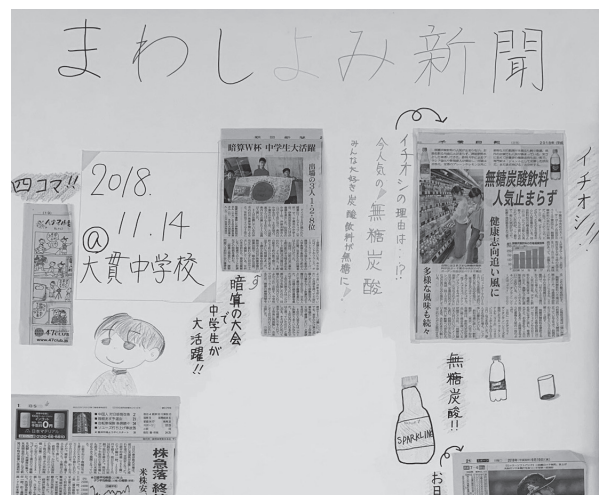
① 『まわし読み新聞』の作成(班)

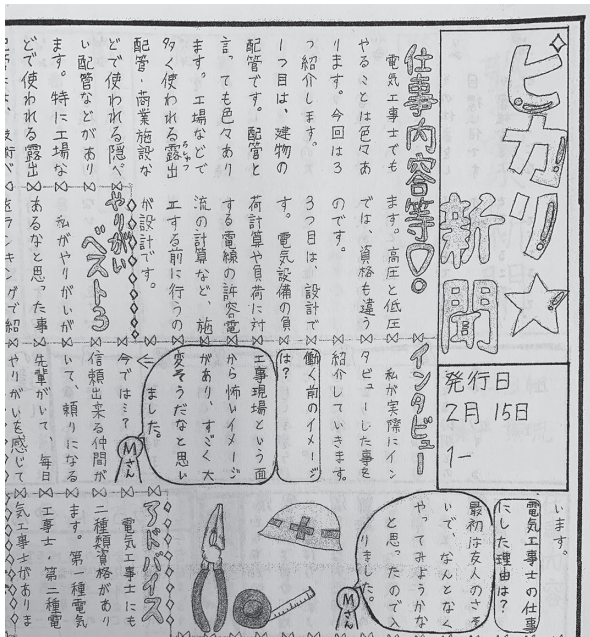
○生徒の活動

- ・興味を持った記事を選び、その記事について意見交換。
- ・模造紙に貼った記事に対してコメントや絵などを書き加える。完成したら鑑賞。

○生徒の感想

- ・普段あまり新聞を読まないの、構成などを学ぶことができ、とても興味深く面白かった。
- ・新聞を切り取り、貼り付けて仕上げていくには、センスのあるコメントが必要。
- ・みんなの興味をもった記事がこんなに違うことに驚いた。





②『職業新聞』作成(個人)

○生徒の活動

自分が知りたい(関心がある)職業について、調べたり、インタビューをしたりした上で、その内容を元に新聞を作成する。(「身近な職業調べ」5/10時間)

○教師の活動

・内容の指導

「見出しを読んだだけでほぼ伝わる」

「読者のことを考えた文章を心がける」

「一文は短く」

「伝えたいことは文の前半に置く」等

・紙面レイアウトの指導

「太く濃いデザインの見出し」

「段組みの工夫(例：腹切りを避ける)」

「モノクロ印刷を前提にデザイン」

「グラフ、タイムテーブル、写真、イラストを活用」等

○生徒の感想

・新聞の書き方がわかり、伝えたいことが上手にまとめられた。

・校外学習の時に比べて上達した。

・記事の見出しや新聞のタイトル作成に工夫をしたら、先生に褒められて嬉しかった。

・新聞を作る前は、これとってなりたい仕事もなかったが、新聞を作っているうちに○○になろうと決めた。これからは仕事のことも学びつつ、勉強も頑張る。

(5) C教諭【社会】基本的人権「プライバシーの権利」(3学年)

ゴミの分別が不徹底な住民の「ゴミ袋の開封調査」を実施することが検討されている自治体があるという記事を活用。

記事には賛成意見と、反対意見があり、生徒にもワークシートを活用させながら、意見を求め、人権についての理解を深めることに活用した。

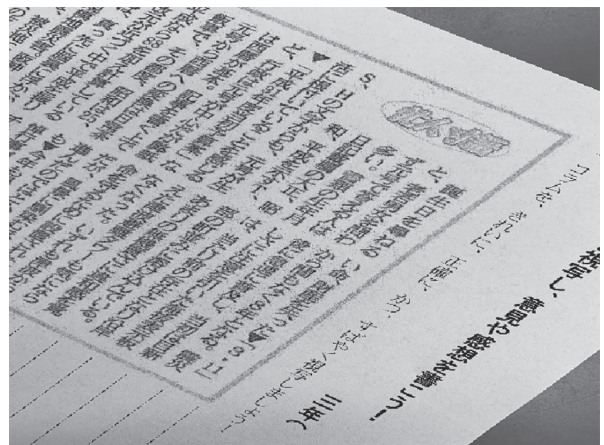
(6) D教諭E教諭【国語科】(1～3学年)

○新聞への投書を参考に、意見文を作成。

○新聞の4コマ漫画の内容から題材を考え、意見文を作成。

○読売新聞「人生案内」から、中学生に読ませるのに適当であろう事例を取り上げる。紙面にある著名人からの回答は伏せ、「自分だったらどうアドバイスをするか」を考えさせる。これらの取り組みは、いずれも話し合い活動に発展させた。

○新聞のコラムの視写。(授業内、朝の10分NIE)



3 結果(成果と課題)

【成果】

- ・新聞を活用すると、生徒の知っている情報やニュースと学習内容がリンクされ、授業等の導入が円滑に行われたり、意欲が高まったりした。
- ・話し合い活動が活発に行われ、自らの意見を主張しつつも、他者の意見を受容することができ、生徒指導の機能の一つである「共感的な人間関係」を形成する一助となった。
- ・視写によって、文章の書き方が変わってきた生徒がいた。どのような文章が相手に伝わりやすいのかを考えるきっかけになったように感じた。

【課題】

- ・学校行事等において授業を削らざるを得なく、授業時数自体が不足気味である。その中で、授業時数を確保しつつ、N I Eを行うのは工夫が必要であった。
- ・教師側が新聞を活用した授業実践をするという視点をもって、教材研究を進めていく必要がある。その際、記事の内容を精査することが求められる。

4 まとめ

1年生は、行事等の取り組みの後は新聞を作成することが習慣化された。億劫がっていた生徒達も、回数を重ねるごとに質が高くなり、きれいに仕上げられるようになったばかりか、取り組みにかける時間も短くなっている。

これに象徴されるように、教師の意欲やアイデア、そして、継続し(させ) 続けるという意志の強さが生徒の力を伸ばしてあげることを再確認できた。

来年度は指定を外れるが、限られた環境の中

で、引き続きN I Eに取り組む。私たちの意欲喚起の良いきっかけとなったことに大いに感謝したい。

生徒が主体的に学び合う工夫 ～共感的人間関係を育成する活動を通して～

千葉県立磯辺中学校 湯田 智貴

1 はじめに

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。だからこそ、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と人生の創り手となることが期待される。また、今日の情報化社会では、正しい情報を得て、正しく理解する力やいかなる変化にも柔軟に対応する力を身に付けることが重要になってくる。これらのことから、情報が入ってくるのを待つのではなく、自分で必要な情報を探し、そのことについて考えること、そして自分の考えを伝えていくことが大切であると考えられる。

平成29年度に告示された学習指導要領解説では、求められる子供たちの姿の1つとして「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」と記されている。新聞を用いて、主体的に物事を考え、他と議論し学び合うことができるようになることを目標にNIE活動に取り組み、これからの社会で生きていく力を養っていきたい。

2 実践内容

(1) 国語科での活用

国語科では、語彙力チェックテストの結果から社会的事象や時事に関する語彙について関心・理解が低いことを明らかにした。この部分は半数以上の生徒が新聞を読むことが少ないということに

起因していると考えた。この結果を受け、自分の思いを伝える文章を書く力を育むために、表現の基盤となる語彙に注目し、NIEを活用した

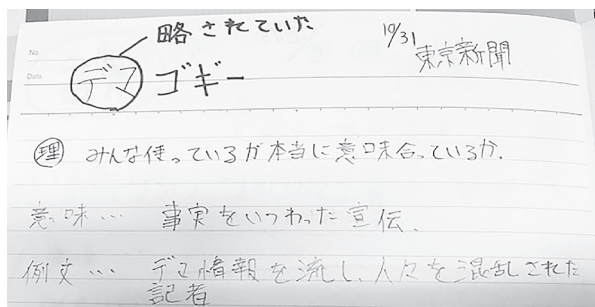
授業実践を行った。その1つとして「語彙手帳」の作成がある。朝読書の時間や国語科の授業内に新聞を読み、その中で、使えそうな言葉・使ってみたい言葉・意味を知らない言葉などを「語彙手帳」に記入し言葉を収集してきた。NIEの活用によって、普段なかなか触れることのない言葉を集め、使うことができるようになってきている。



<新聞から語彙帳を作成している様子①>



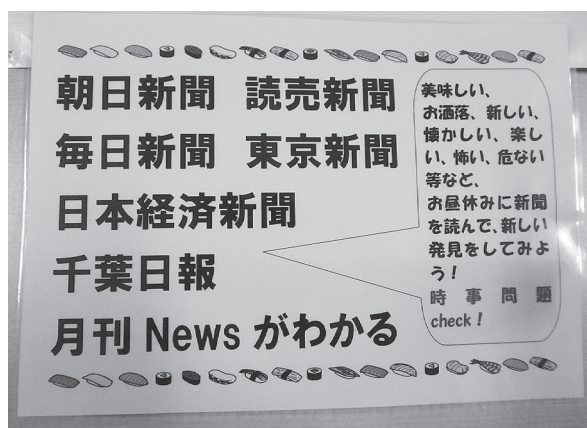
<新聞から語彙手帳を作成している様子②>



<生徒が作成した語彙手帳>

(2) 図書委員会での活用

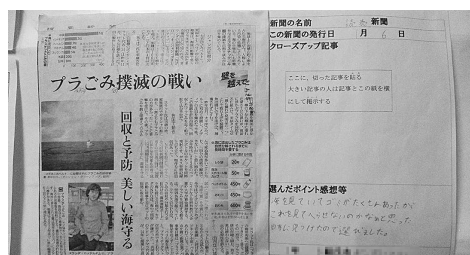
図書委員会では、昨年度に引き続き、昼の放送で新聞記事を紹介する番組を制作してきた。最初は、図書委員の生徒だけの活動だったが、徐々に他の生徒も興味を持ち、新聞記事をもとに自分の意見を伝えようと試みる生徒が増えてきている。



<新聞の面白さを伝える掲示物>



<関心のある記事を紹介する掲示物>



<放送番組で紹介した記事①>

(3) 社会科の授業での活用

社会科の授業では、授業の始めに新聞の記事を用いてスピーチをする時間を設けてきた。生徒が興味を持った出来事について、複数の新聞から情報を集め、紹介、さらに自分の意見を発表する形式で行っている。

3 成果と課題

(1) 成果

今年度は、昨年度の実践の継続が活動の中心となつてしまい、発展させることができなかった。しかし、教科や委員会の取り組みによって、最初は一部での活動も、校内での継続した活動が周知され、活動範囲を広げることができた。

今の時代、インターネットやスマートフォンなどの情報機器の普及により、調べたいことや興味があることの情報簡単に手に入れることができるようになってきている。しかしその反面、自分の興味があること以外の物事とは、触れる機会が少なくなってきたと想像できる。そのような中で、生徒が新聞を読むことは、様々な記事を通して、視野や考え方を広げるよい機会になっていると2年間の実践を通して感じられた。

(2) 課題

各教科領域で生徒が新聞に対する親しみ持ち、授業の発言や普段の会話などに生かされるようにしていきたい。そのためにも、新聞を生きた教材として、さらに発展した取組を行っていきたく考えている。

「新聞を身近に」

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校 大塚 功祐

1 はじめに

本校は本年度よりNIE実践指定校となりました。年度当初に新聞に関するアンケートを実施しました。



新聞を家庭で定期購読している生徒は56.6%でした。その中で毎日、新聞を読んでいる生徒は1割にも満たず、新聞離れを感じました。まずは新聞に接し、新聞の有用性、魅力に気づいてもらうことを本年度のテーマとしました。

2 実践状況

(1) 記事を掲示する

①視覚で記事の魅力を知る

廊下にある非常階段の扉に目を引きそうな記事を掲示しました。主に視覚でインパクトの残る記事を中心に貼りました。「歴代総理の特集」「仮面ライダー」「東京オリンピックに向けて



若い世代の活躍」「広告」などジャンルは問わず、立ち止まって読みたくなるものを定期的に更新して掲示し続けました。

すると、記事の前に生徒たちは自然と集まり記事に関する話題で話をしていました。また、サッカーワールドカップの時期は、サッカー部の生徒から「もっと記事はないんですか」と要求されるなど、新聞を楽しんで触れることができました。

②注目ニュースを切り取り、考える

一方、教室のカベには、視覚的に印象に残る記事だけでなく、話題のニュースを掲示しました。「米朝首脳会談」「北海道の地震」など読んで、自分の考えを持ってほしいものを抽出し、定期的に更新しました。



掲示し始めの頃は、あまり生徒たちは関心を示しませんでした。社会科で毎回定期試験に出題される時事問題対策のために読んだりする姿が徐々にみられるようになり、「新聞って面白い」という声もきこえるようになってきました。

(2) 授業での活用

①記事に対する意見文を書く(社会科)

授業の冒頭で新聞記事を読み、意見文を書く

取り組みをしています。ワークシートを授業の冒頭で配り、10分間で書いています。読売新聞が毎週メールで送っている「読売ワークシート通信」や朝日新聞の「Teachers' メール」を活用することもあれば、オリジナルで作成したシートを使うこともあり、様々です。最初はなかなか10分間で文を書き上げることは難しかったのですが、徐々にシートにびっしり書けるようになってきました。

②ディベート(社会科)

3年生の社会科のまとめとしてディベートを行いました。「夫婦別姓を認めるべし」「消費税をなくすべし」「死刑制度を廃止すべし」をテーマに、クラス全員を肯定・否定側の5人程度のチームにしました。準備の際、テーマに関する新聞記事を集め、参考資料として各チームに平等に提示しました。

各チーム、新聞記事を読み込み、本番に備えしっかりと準備をしていました。ディベート後の感想に「普段あまり考えないことを深く真剣に考える良い機会になった。」「さまざまな新聞記事をこんなに深く読み込んだことがなかった。」などの前向きな声が多数を占めました。

③まわし読み新聞(道徳科)

2学年の道徳で他者の考えを尊重したり、自分とは違う考えを知るなどをねらいとして「まわし読み新聞」を作成しました。

4人程度の班で、気になる記事を切り抜き、その後、一人一人が選んだ記事をプレゼンしていき、どう思うか意見交換しました。

「ひとりよがりではなく、周りの人の意見も大切にしようと思った。」「新聞は自分の興味あるニュースだけでなく、いろいろな話題を知れることがわかった。」「自分の考えだけでなく、別の見方もあることを感じた」などの感想があり

ました。

④コラム、社説の比較(国語科)

各新聞社の1面にあるコラムや社説を読み比べ、同じテーマで論じている内容にもかかわらず、視点や考え方が違うことを理解することができました。

(3) 図書室との連携

司書の久保佳代子先生にご協力いただき、図書室からNIEの魅力を発信していただきました。

図書室前廊下に紙面の比較ができるように掲示しました。生徒達は各新聞社の記事内容は同じだと思い込んでいるので、各社の紙面の特徴、その日の出来事の取り上げ方の違いを知れるようにしました。

また、新聞の読み方に関する掲示も行い、リード文など記事の構成も理解できるようにしました。

3 まとめ

実践指定校1年目は、生徒が素直に柔軟に取り組んでくれたのでいきいきとした新聞活用の時間となりました。生徒が新聞を身近に感じられるようになってきていると思われま



授業における日々の学習は、新聞によって身近な社会生活とつながっていることも実感できるものになりました。

ただ、新聞を読む、意見文を書くだけで終わっているのでは、多角的に物事をとらえ、他人ごとにならないように意見を述べ、書けるようにしていくことが次年度の1つのテーマとなりそうです。

地理の授業におけるN I Eタイムの活用

千葉県立成田国際高等学校 石毛 一郎

1 はじめに

N I Eタイムが各地の小中学校で普及しています。しかし高校ではなかなか広まりません。さまざまな理由がありますが、授業時間の確保や各種行事の増加など、たとえ朝の10分程度でも新たに設定することが難しい環境にあります。



そこで、自分が担当する地理の授業にN I Eタイムを設けることにしました。高校の場合、家庭における新聞購読率は各校でかなり差があります。進学校では比較的高く、課題校では低い傾向にあります。同時に、どの学校の生徒もほとんど新聞を読まない実態も明らかになってきました。N I Eタイムでは、毎回の授業の冒頭の5分間は、新聞を読む・見る・使うという時間にあてました。

2 N I Eタイムの取り組み

(1) 手に取り読む

授業は社会科教室で実施します。教室の後方に長机を置き新聞を並べます。各社あわせて50部程度です。実践指定校なのでたくさんの新聞が届きます。できれば論調の異なる各紙を混ぜて置きます。夕刊に興味を持つ生徒もいますからあわせ

て置きます。

生徒は、教室に入ると好きな紙面を取り読み始めます。自席で読んでもどこで読んでも構いません。号令もかけません。1人で集中して読む生徒もいれば、面白そうな記事について情報を交換しながら読み合う生徒もいます。

(2) 紙面の仕組みを理解する

生徒にとって1日分の紙面は相当な情報量です。5分間で目を通すことのできる分量は限られています。そこで、生徒にとってはあまり馴染みのない政治面・経済面・国際面・生活面などの場所や構成も伝え、記事を探す上で役に立つようです。

版立ても教えます。紙面の上方に記された数字や記号の意味を確認します。本校は多くの生徒が千葉市から成田市にかけて居住しています。大きなニュースが報道される際には、香取地域や海浜地域の生徒宅の1面が異なる場合もあります。一部には夕刊が配達されない地域もあるので、同じく紙面内容に差が生じることもあります。これらを通して、新聞は情報産業であり、本社や印刷工場などの立地環境により提供される情報にも差があることも学習します。

また、広告欄に興味を示す生徒も少なくありません。雑誌の広告に興味を持ち、そこから時事的な話題を整理する生徒もいたり、旅行商品の広告を見ながら地図帳でそのルートをなぞったりする生徒もいます。最近は全面広告も増えました。カラー版で豪華な紙面も目立ちます。なかには文字数も多く一見すると本文と見分けが付きにくい広告もあります。

(3) 教科書との関連を意識する

高校の地理で学習する内容は現代の出来事です。そのため、新聞に掲載される内容に関連が深いことがたくさんあります。授業で新聞を読む習慣がついてきたら、教科書との関連を意識しながら読んでみるようにと伝えます。例えば、自然環境では「プレートテクトニクス」「地震」「津波」「火山」などの地形や災害の学習をします同じく環境問題では「地球温暖化」「砂漠化」「森林破壊」などを学習します。他にも、産業・エネルギー・都市・人口・生活文化など幅広い分野を扱う地理の学習は、新聞で扱う現代の諸課題と密接に結びつきます。

これらのことを生徒がより実感できるように、ワークシートも活用します。その日に読んだ記事が、教科書のどの部分に関連があるのかをメモします。正解は1つとは限りません。例えば、「中

国では1人っ子政策は廃止されたが少子化が続いている」という紙面を読めば、教科書では「人口問題」や「都市問題」の他に「東アジア」の中国のページにも関連した内容が登場します。毎回の授業で、新聞と教科書のつながりを考える練習を継続することで、地理という科目の構造を理解する助けにもなります。

(4) 場所を意識する

新聞を読むことになれてくると、生徒は記事に登場する地名や場所にも注目するようになります。国際面にはさまざまな国名や都市名が載りますし、地元紙の地域版なら市町村名や詳細な地区名も紹介されます。

地理学の研究に「新聞紙面における記事の発信

地や言及地の分析」があります。新聞が提供する情報の地域性を明らかにする取り組みです。

過去の調査では、「千葉日報」に掲載される記事の30%以上を千葉市が占めています。次に東葛地域が多く、成田・茂原・木更津などの拠点都市の話題がそれに続くことが報告されています。このような成果も紹介しながら、「地図帳を見ながら新聞を読めば地域のつながりが見えてくるよ」と声もかけています。

折込広告を活用することもあります。カラフルで華やかな紙面は、日常生活に密着した生活情報でもあります。販売店の所在地に注目させると、商圈の学習にもつなげることができます。成田市は県東部では最大の商業都市ですが、同時に県都の千葉市や開発が進む千葉ニュータウンの印西市の影響も受けていることが、折込広告から読み取ることができます。また、空港周辺にはゴルフ場や大型霊園など、地理的な特性を示す土地利用が展開されていることもあわせて知ることができます。

地名や場所を意識しながら新聞を読む方法は、地理の授業でNIEを展開する意義の1つと言えます。

3 次年度に向けて

NIEタイムを充実させようとさまざまな方法を試してみました。年度末の授業評価アンケートでは、「新聞の面白さが分かった」「地理の勉強に関係があることが分かった」など肯定的な意見もみられた一方で、「家で読めない(読まない)ので貴重な機会だった」「もっとゆっくり読みたかった」など、単純に「新聞を読みたい」という声も数多く寄せられました。これが次年度への向けての大きな課題です。

自分の意見を持って社会を見つめる

昭和学院秀英中学校・高等学校 秋葉 亜紀

1 はじめに

本校は、昭和58年に「昭和学院秀英高等学校」の設立、昭和60年に中学校を併設。総合教育機関として社会的に貢献するとともに、地域社会の発展に寄与するため、国際都市、幕張新都心に隣接する現在の地に開校した。「明朗謙虚 勤勉向上」の校訓のもと、自分の希望する大学への進学を目指す生徒たちが日々学習に励んでいる。

「質の高い授業」「きめ細やかな進路指導」「豊かな心の育成」の3つを実践目標としているが、今年度初めてNIE実践指定校となり、これら3つの目標の実践の一環としてNIEに取り組みを始めた。具体的には、NIEによって、授業で学んだ事柄と現実社会のつながりを実感すること、将来どのような分野で活躍したいのかを具体的なイメージを持って考えること、そして、自分で考えて判断し行動する主体的で自立した人格を形成することを期待している。

新聞にはこの他にも、さまざまな効果が期待できると考えている。しかし、ほぼすべての生徒が大学進学を希望おり、日頃の学習や部活動等に忙しく、ゆっくりと新聞を広げる時間を取ることができていない生徒も多く、インターネットの普及もあって新聞を購読していない家庭も年々増加傾向が見られ、新聞離れは進んでいる。NIE実践指定校となって校内でNIEに取り組み始めることで、少しでもこの状況を打破するきっかけになればと思ってスタートした。

このような思いで実践指定校となったが、全校的に話し合う時間的余裕はないままに1年目はスタートしたため、担当者のできる範囲で取り組み

をはじめた。しかし、少しずつNIEを実施していることが校内で伝わり、新聞を授業などで利用する場面が増えてきた。

2. 実践状況

(1) 高1 現代社会の授業での取り組み

①新聞プリントの配布

週に4記事を選び、それぞれ問いをつけてワークシートを配布し、それを自由提出の課題とした。その新聞記事の内容は全員が読んでいることを前提に、定期考査で時事問題として出題した。



新聞各社の配信しているワークシートをたびたび利用してワークシートを作成したため、教員の負担が軽くなり、大変助かった。

年度当初、新聞を読む習慣のある生徒はほぼおらず、家庭に新聞のない生徒も多かった。また、受験意識の強い生徒たちであることから、自由に新聞記事を読むということではなく、半ば強制的に新聞を読む機会を設けることから始めた。内容は授業を補完する記事を中心に選んだが、生徒たちの生活に直接関連する記事や、社会への関心を高めるような記事、新聞への興味を持てるような記事も含めるように心がけた。徐々に新聞を読むスピードも上がり、要約や関連する問題への取り組みも良くなり、提出者が増えていった。最も効果を感じたのは、生徒の中から「授業での学習が新聞の内容を理解

するのに必要だと感じた。」「新聞を読むことで学習への関心が高まった。」という感想が多く見られたことであった。

一方で、自由に新聞を読むことができるコーナーを設けたが、自主的に読む生徒はなかなか増えなかった。そのため、授業内容が早く終わった時に短い時間を使って授業内で新聞を読む時間を作った。その時間には熱心に新聞を読み、関心のある記事を切り抜く姿が見られた。

②新聞社出張授業

10月に読売新聞社が実施している出前授業を学年集会の形態で実施した。おいでいただいた記者の新聞に対する思い、取材の仕方、記憶に残っている事件、新聞を作るときの基礎、タイトルのルール、文字数などの注意点などについて話を聞いた。新聞を読むときと書くときの違いを理解して、今後の活動につなげることができた。本物の記者の話は臨場感があり、生徒たちの関心も一気に高まったように感じた。

③SDG s 新聞の作成



SDG s について、各自で関心のあるテーマを見つけて1人1枚の新聞を作成した。実際に作成したのは冬季休業課題だったが、9月から予告をし続けていたことで、2学期を通して必

要だと思われる情報を収集できるようにした。新聞の枠は中日新聞の Web サイトにある学習新聞割り付け用紙を利用させてもらったため、用紙の用意にお金をかけることなく準備できたことはとても助かった。生徒たちは本格的な枠の利用によって、意識を高めて丁寧に作成していた。

さまざまなテーマによって具体的な新聞が作成されたため、傑作選として全員分を印刷して配布したところ、配布してすぐに生徒たちが熱心に読む姿が見られた。また、他の教員にも配布したところ、その内容が充実していることに驚きの声も届き、NIE1年目の最後の全員での取り組みとしてはよいまとめになった。

(2) 高1 希望者の取り組み

①希望者補習の実施

放課後に各教科が実施している希望者補習の1つとして、「新聞を読もう!」という講座を開講した。1時間半の時間の中で、全班は自由に新聞を読み、関心のある記事を切り抜く時間を作った。後半はまわし読み新聞や、テーマ(例:投書を読む)を設定して、みんなで新聞を読み、選んだ記事をもとに議論をした。



この補習を知った新聞情報社の記者から取材の申込みを受けた。生徒たちの通常の補習の様

子を見ながらインタビューを受ける経験もすることができた。また、取材に来てくれた記者に協力を依頼して、こちらから逆取材という形で囲み取材をさせていただき、記者の仕事への関心を高める機会を設けた。お礼状ははがき新聞の形で作成することで、オリジナルのお礼状を作成することができたのもよい経験となった。

②新聞社主催イベントへの参加と新聞社見学

夏季休業中に読売新聞東京本社で行われた「情報インフラを大研究！」というイベントに希望者7名が参加した。野村総合研究所と読売新聞東京本社が実施したイベントであり、NRIの行うIT戦略体験のプログラムを受け、NRIの社内見学をしたあとに、読売新聞の編集室の見学と読売新聞教室で模擬取材のプログラムを受けた。実際に新聞社に行き、本物に触れることは社会への関心を高めると共に、新聞への興味も一層増した貴重な機会となった。

③「いっしょに読もう！新聞コンクール」への出品



夏季休業の希望者課題として「いっしょに読もう！新聞コンクール」への取り組みを課した。希望者のみの提出であったが、約1割の生徒が熱心に取り組み、出品することができた。新聞を購読していない生徒には、学校で自由に

切り抜きできるコーナーから新聞を用意するよう指示した。

このコンクールの最大の魅力は、家族や友人と議論しなければプリントが完成しないことである。1つの記事から自分とは異なる意見を聞くことで、さらに視野を広げることができた生徒が多くいたことはよかった点である。

(3) 高1国語科の作文指導での取り組み

本校では、創立以来、作文指導に注力している。中1から高3まで、各学年で出されたテーマについて800字の作文を書いている。毎年、その中から選ばれた作品を、



『葦牙(あしかび)』という名の文集に掲載し、教員のアドバイスを付して、全校生徒に配布している。

今年度、社会科のNIE活動に関心を持った高1作文指導担当の国語科の教員が、作文のテーマに新聞記事を取り上げた。課題内容は「最近の新聞で興味を持ったものを選んで要約し、それに対する自分の意見を述べなさい。」であり、課題のねらいは「①読むスキルを書くスキルに転換する。②意見文の『型』を使いこなす。」であると生徒に示された。生徒が自由に記事を選んでの作文のため、社会課題に対してさまざまな意見が出されて読み応えのある作文となっていた。例えば、「難民の受け入れをめぐって」や「思想に優劣はあるのか」「補助制度の促進」「核軍縮のために」などの作文が『葦牙』に掲載され、全校の生徒及び保護者が読むことになった。

(4) 中1 総合的な学習の時間での取り組み

中学1年生は、総合的な学習の時間で、自分の意見を伝える活動を行っていた。夏休み明けにビブリオバトルに挑戦したあと、新聞を元に、社会に目を向け、自分の考えをクラスメイトに伝える活動に取り組んだ。

新聞を読んでみて興味ある記事をワークシートに最低3つの記事をスクラップし、その中で最も興味を持った記事について、班内で発表を行い、質疑応答の時間を設けた。事前に取り組んでいたビブリオバトルの経験が活かされ、発表はスムーズに実施できた。その内容をもとに、1人1枚のオリジナル壁新聞を作成し、それを元に3分間のスピーチを行い、班代表、クラス代表を決めて中1中2生徒全員と保護者の前で発表を行った。高1同様、新聞を読む習慣がほとんどなかった生徒たちだったので、大量の新聞を教室に持って行き、各自のペースで自由に新聞に向き合う時間を5時間用意してじっくりと記事を選ぶ時間を設けた。

また、活動の初期のタイミングで、高1で実施した読売新聞社の出前授業の話を聞いて、中1でも実施することにした。新聞の読み方から、オリジナル新聞の作り方まで、高校生とは異なる内容でわかりやすく説明をしていただけたことで、生徒たちが活動をイメージしやすくなった。

3 結果および考察

まずは取り組めるところからということで始めた1年目だったが、結果的に学校に届けていただいた大量の新聞を活かして様々な活動に取り組むことができた。新聞が縁遠いものではなく、読めばさまざまなことが学べて面白いと感じる生徒が増えてきたように思う。また、受験や今後の生活にとっても大変有効なものであるという意識を持

つ生徒も出てきている。一方で、授業内で機会を設けたり、課題にしたりしなければ自主的に読むという姿勢はまだ育っていない。

今年度は高1と中1での取り組みであったが、少しずつ新聞が学校に届いていることが校内で浸透しつつあり、新聞コーナーで新聞を閲覧する生徒も増えてきているので、来年度はさらに活用場面を工夫し、生徒自身が読みたいと思えるようにしていきたい。

また、今後の課題として、インターネットでニュースを読んでいる多くの家庭では、新聞を購読しておらず、新聞を家で読むことは難しい状況の中で新聞を身近な存在に感じさせるためにどのような工夫をしていくかを考えていく必要がある。

5 まとめ

N I E推進指定校の1年目として、できることから始めていったが、取り組んでみると生徒の変容が見られて、教員にとって勉強になることが多かった。しかし、日々の業務の中で他の教員とN I Eについて語り合うような時間が取れず、担当者レベルで実践をしているために、なかなかアイデアが広がらず、活動に一貫性を持たせることも難しかった。新聞が大量にあるという環境も、推進指定校であるが故であり、推進指定が外れたあとにも同様の活動をするのは難しいかもしれない。2年目となる2019年度の1年間での取り組みを受けて、2020年度以降に推進指定校でなくなっただけからのN I Eについても考えていきたい。

新聞の役割、面白さ伝える

松戸市立松戸高校 瀬和 真一郎

1 はじめに

松戸市立松戸高校は松戸市に位置する市立の高校である。全校生徒は1091名、学校教育目標は「逞しくジリツ(自立・自律)した人を育てる」である。今年度9月から2年間N I E実践指定校となり、学校教育目標の実現に向けて様々な取り組みを行っている。

2 実践状況

(1) 学年での取り組み

- ・市松N I E(3学年)



3学年では新聞スクラップを行っている。各クラスの新聞係がN I Eコーナーにある新聞から興味・関心がある新聞記事を選び、ホワイトボードに感想や自身の考えを記入するものである。生徒が書いた内容に対して担当教員がコメントを記入しているので、生徒と教員の相互的な活動となっている。毎日学校に配達していた新聞を進学や就職時の面接試験、小論文試験対策として活用している生徒が増えてきており、少しずつではあるが新聞の重要性が生徒に伝わっている。

- ・校外学習新聞、修学旅行新聞(2学年)

2学年では校外学習、修学旅行の報告書として新聞を活用している。廊下にも掲示しており、良い作品には優秀賞を授与している。

- ・道徳(1学年)

道徳の授業で新聞記事を活用したワークシートを用いて授業を行った。

(2) 授業での取り組み

- ・体育理論

保健体育科では1学期と2学期に全校生徒に体育理論で新聞を活用している。体育・スポーツに関する内容について自分の興味関心のあるテーマを見つけ、新聞形式でまとめて提出している。

- ・保健(はがき新聞、切抜き新聞作り)

各学期の期末試験前の2時間で試験範囲内のテーマを取り上げ、はがき新聞や切抜き新聞にまとめ発表している。この新聞作りは各学期の復習(振り返り)にもなっている。

- ・国語表現(自分史)

国語表現(3学年)の授業では「自分史」を作る单元の中で自分の生まれた日について調べるという時間がある。この活動時に朝日新聞の縮刷版で自分の生まれた日の記事を調べさせ、レポートにまとめさせている。

- ・国語(2年生)

流行している話題や物についてグループで模造紙に新聞を作り、発表している。

- ・社会(3年生)

地理研究、国際関係という科目では新聞記事を活用した問題を定期考査に出題している。考

査1週間前からの7日間の新聞記事(総合、社会、国際、政治の分野に限定)を考査に出題し、生徒が新聞を読む環境を作っている。

(3) クラス(ホームルーム活動)での取り組み

・新聞記事の紹介

新聞係が気になる新聞記事を教室後方のスペースに張り出している。

・クラス通信

毎月クラス通信を作成している。裏面に気になる新聞記事を貼ってクラスの生徒に配布している。

・NIEノート

クラスにNIEノートを用意し、前の生徒が選んだ新聞記事に自分の考えや感想を記入させている。記入後、次の生徒のために新聞記事を選び、ノートに貼るという活動を行っている。

・LHR

1人1部新聞を配布し、自分の気になる記事を1分間で紹介する活動を行っている。

(4) 部活動

男子サッカー部では部内に新聞委員会を作り、月に1回サッカー部新聞を発行している。

(5) 研修会

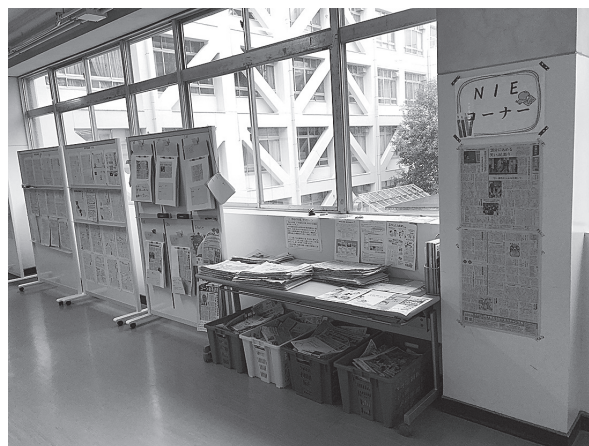
・12月4日に千葉日報社のご協力を得て市川第二中学校の武藤和彦先生を講師にお招きし、「誰でもできる新聞の活用法」というテーマで教員研修を行った。

・1月24日に2学年の総合的な学習の時間で東京新聞の鈴木賀津彦氏をお招きし、講演会を行った。

生徒は新聞記事の書き方や新聞記者の仕事について学ぶことができた。

(7) NIEコーナーの設置

毎日配達されている新聞を置くだけではなく、3学年の新聞スクラップや体育理論、保健で作成し

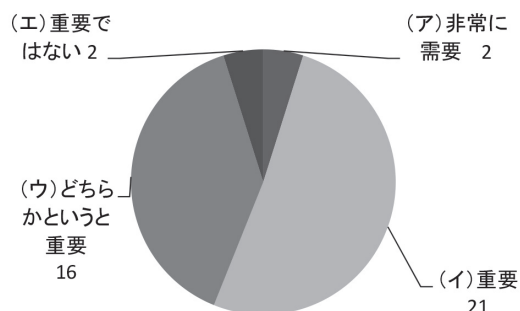


たはがき新聞、切抜き新聞、NIE研修会で頂いた資料等が閲覧できるようになっている。

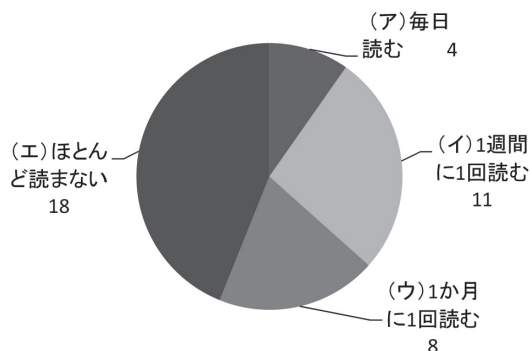
(8) 生徒アンケート(一部)より

3年3組(41名)で新聞に関するアンケートを行った。結果は以下の通りである。

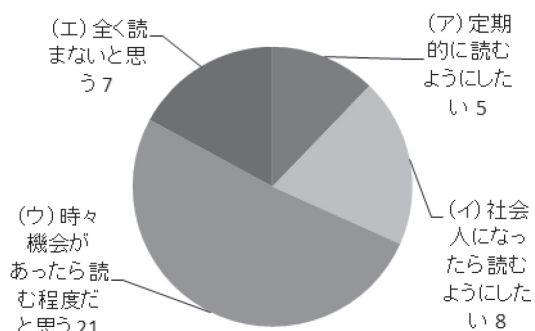
Q 1. 新聞を読むことは重要だと考えるか?



Q 2. 今まで(1ページでも)新聞を読んだことはあるか?



Q 2. 高校を卒業した後、定期的に(毎日)新聞を読むことはあると思うか？



●生徒の声(一部紹介)



- ・新聞はスポーツや経済等いろいろな分野に分かれて記事が書かれているので面接に活かせてよかったです。
- ・新聞社によって書く内容が違うので面白い。
- ・文字を読むと頭が活性化されると思う。
- ・普段はニュースなどを観ていてわかりやすいと思いますが、ニュースで扱わない記事もあり読んでいて楽しい。
- ・情報を得る手段として非常に重要だと思う。
- ・今はネットで十分かなと思う。
- ・新聞を読むだけでなく、気になった記事を自分なりに調べることも大事だと思う。
- ・入試の時にグループ面接で新聞のことが出た。クラスで新聞の活動をしていたので言い

やすかった。

- ・新聞を読むようにしたい。
- ・たくさんの知識を吸収するために新聞は大切なので読みたい。
- ・新聞は日本のことだけではなく、海外の情報まで知れるので良い。
- ・社会の問題が分かるため良いと思った。

3 まとめ

新聞を活用した様々な教育活動を通して生徒に少しずつ新聞の重要性や面白さを伝えられたかなと感じている。今後の課題は、より質の高い新聞を作成するためにループブック評価を活用する、既にNIE活動をしている教員と連携する、まだNIE活動を行ったことがない教員を少しずつ巻き込むことである。来年度も今までの活動を継続し、生徒の思考力、判断力、表現力の向上に貢献するとともに卒業後に新聞を読む人間を増やしたい。

N I E、まず新聞を知ることから

千葉県立君津青葉高等学校 根本 哲一

1 はじめに

本校は平成28年4月に創立100周年を迎えた県下有数の伝統校であり、これまで、農業・林業・工業などの実業の学びを中心に多くの人材を県内外に送り出してきた。

近年、地域の急激な少子化により生徒数が減少しているものの、食品、農業、環境、土木、商業、家庭・福祉、普通の7系列の総合学科高校として存在意義を高めている。

さて、本校は、今年度N I E実践推進校の指定を受け、「新聞を身近に」をテーマに掲げて実践に取り組んできた。

ここでは、本校生徒の実態を踏まえて、テーマ設定の理由について簡単に説明しておきたい。

まず、家庭で新聞を購読している割合が低い。1学年生徒にアンケート調査をしたところ、購読率はほぼ4割であった。生徒の半数以上が、生まれてからこのかた自宅で新聞を見たこと、めくったことが無いのではないかと。にもかかわらず、小・中・高校の先生の話に必ず登場する枕ことばが「テレビや新聞で…」というフレーズである。考えてみればずいぶんと実態からかけ離れている。

これを「なるほど、確かに新聞に載っている」と生徒に実感させたいと考えた。

続いて、本校の場合、読解力に課題がある生徒が多く、教科書の内容を十分に理解させることが難しい。ならば、ファッションやスポーツ、生徒の興味関心が高い記事、大きな事件や事故、世の話題になっていることに関係した記事などから、リーディングスキルを高めていきたいと考えた。

2 実践内容と成果

(1) N I Eコーナーの設置

学校内で生徒が最も行き来する中央廊下に新聞のスクラップを掲示するN I Eコーナーを設置した。そして、月一度のペースで国内外の大きな出来事をテーマに複数紙を横断した特集を組んだ。



このことにより、生徒や先生方に少しずつN I Eの取組みが認識されていった。じっくりと目を通す生徒は決して多くはないが、授業で話をする「先生、その話、掲示板の新聞に載っていたね」などという会話が飛び出すようになった。

(2) 新聞とは？
これについては二つの面から取り組んだ。まず、新聞の作成には多くの人が関わり、新聞が家庭に届くまでにどのような苦労があるのかを理解させること。もう一つが、その新聞にはどんなことが書かれているのかである。

私は、40数年前、高校生の際に新聞配達のアルバイトをした。父から「朝早く仕事に出かける人もいる。配達にはできるだけ早く行け」と言われ、毎朝5時前には配達を始めた。雪の中の配達経験こそないが、厳冬期や暴風雨のなか自転車で配達したのを今でも鮮明に憶えている。

学校の教壇に立つ者で、新聞配達の実験がある者は少ないだろう。だからこそ、新聞に対する愛着は強いし特別な思いもある。

学校の教壇に立つ者で、新聞配達の実験がある者は少ないだろう。だからこそ、新聞に対する愛着は強いし特別な思いもある。

折に触れ、その経験を話したが、生徒は真剣な表情で聞いてくれた。

また、新聞は朝刊だけでなく夕刊もあることを知らない生徒、家庭で新聞をとる(購読する)料金はどれくらいなのか見当が付けられない生徒も多かった。我が家の1か月の新聞購読料は朝刊と夕刊のセットで4,037円。1日に朝夕の二度自宅まで配達してもらって1日130円ほどである。この話も、生徒は「ふうーん、そうなんだ」という顔で聞いていた。

さらに、ノンフィクション映画だが、日航123便の飛行機事故の際の地元新聞社内の錯綜した人間模様を描いた『クライマーズ・ハイ』を生徒に見せた。特ダネを追う記者、編集、印刷、そして販売(配達)に関わる人たちの確執から新聞づくりの一面に興味を持たせた。また、古都ローマを舞台にしたアン王女とアメリカの新聞記者ジョーとの切なく淡い心模様を描いた映画『ローマの休日』も見せた。

生徒は新聞記者について、それぞれの思いをめぐらせてくれた。

公民科の授業では、新聞の紙面構成(朝刊や夕刊の一面から社会面までどんなページがあるのか)や見出しの特徴、サマライズなど、新聞を読む者が短い時間に必要な情報を理解するための工夫なども紹介した。

(3) テーマ学習で新聞記事を利用する

本校の生徒は9割以上が就職希望であり、大学入試に向けた特別な制約を受けない。

今年度、3年生の選択政治経済や学校設定科目社会探究の授業を受け持ち、目の前にいる12名から15名の生徒にどう向き合うかに悩んだ。N I Eの実践校指定を踏まえて、4月に出した答えのひとつが、生徒に「感じる力」、「共感する力」を付けること。それが実社会で「行動する力」に

繋がると思ったからだ。

そこで選んだテーマが「ハンセン病」問題と、安全に係る企業の社会的責任について考えるための「日本航空123便の飛行機事故」。

ハンセン病なら、2001年(平成13年)の「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」熊本地裁の判決と国の控訴断念に関する新聞記事。日航機事故なら、33年前の1985年(昭和60年)の事故当時の新聞記事。

N I E(教育に新聞を)の実践において、昨日起きたこと、今日起きたことを知るために新聞を利用するのではなく、「過去の大きな問題や事件を新聞がどう伝えたのか」という視点も含めて、それぞれの問題を考察した。

3 まとめ

初年度は「新聞を知る」、そして「新聞を読む」といろいろなことが分かって面白いなと感じるようになって欲しいと考えて取組んできた。

本校の実践が目指すところは、これから社会の一員として生きていく上で、生徒に新聞(デジタル版も含めて)を上手に利用できるようになってもらいたい、長くつきあって行けるようになってもらいたいということである。そのため、他校とは少し違う実践となっている。

1年が終わろうとしている今、生徒にはN I E活動が少しずつ周知されてきたように感じている。

しかしながら、私の力不足と段取りの悪さから、先生方への働きかけが不十分であり、特に他教科の先生を巻き込む実践には至らなかった。これは次年度の課題である。また、生徒が能動的に取り組む仕掛けをどう準備していくかも課題である。

次年度は、新聞社の見学や新聞販売・配達の仕事に関わっている方から直に話を聞き、生徒の新聞への興味や関心をより高めていきたいとも考えている。

病弱特別支援学校における新聞を活用した授業作り

千葉県立仁戸名特別支援学校 高橋 智子

1 はじめに

今年度よりN I E実践指定校となった本校は、病弱に特化した特別支援学校である。児童生徒の多くが病気を治療しながら学校生活を送っている。また、入院生活を送りながら学習している児童生徒も多い。そのため、生活面での規制が多く、生活経験の幅も少なくなりがちである。児童生徒の多くはスマートフォンやタブレットでインターネットやSNSを利用している。生活に制限のある中で映像やゲームを楽しむ様子が多く見られる。しかし、進んで社会の出来事に目を通す様子はあまり見られない。

そこで、今年度は①児童生徒が新聞を身近に感じること、②新聞を通して世の中の動きに関心を持つこと、③同世代や他者の考えを知る機会とすることをねらいとして、新聞を活用した授業作りを実践することとした。

2 実践状況

(1)「新聞コーナー」の設置

児童生徒や職員が自由に新聞を手にするのをねらいとし、「新聞コーナー」を廊下に設置した。

家庭で新聞を購読していない、新聞を手にする機会がない児童生徒も多い。そこで、新聞を手にする、見出しだけでも目に触れることを期待した。児童生徒の中には、教室に持ち込んで読む者、毎朝の新聞の配布を自主的に行う生徒も現れた。

また、授業に活用できそうな新聞記事を見つけて切り抜いていく職員もいた。

(2)「気になるニュースコーナー」の設置

記事の中から気になった記事を切り抜き、掲示するコーナーを廊下の壁に設置した。コメント(1行程度)を書き添え、他者への発信の場とした。

記事を貼るための台紙を用意し、新聞コーナーの隣に置き、自由に掲示できるようにした。

自分の考えを掲示することは難しいことであったためか、生徒からの発信は少なく、職員からの掲示が多く見られた。また、小学部の授業の中で教材として取り上げた記事を掲示することも見られた。



(3) 授業での活用・利用について

①小学部高学年

「特別の教科道徳」

4年・6年(異学年学習) 合同で、いじめについて新聞の記事を利用して学習した。いじめが最多の41万件であることや小学生でいじめが増加していること、具体的ないじめの事例や、それに対する文部科学省・学校の対応等について新聞から読み取り理解した。それをもとに、過去の経験や自分の意見を話し合った。また、新聞を切り抜き文章化した意見とともに、校内の「気になるニュースコーナー」に掲示した。

他にも、いじめに対しての一般読書からの投稿を読み、一つの問題に対して様々な意見があることを確認した。

② 中学部

「社会科・公民」

授業開始時にその日(または前日)の新聞記事を提示し、話題となっていることを伝えるために活用した。



記事のタイトルや写真をもとに、生徒たちがニュース等で知っていることや、意見を自由に話すためのよいきっかけ材料となった。

選挙に関する授業の際には、日本の選挙との比較として、アメリカの中間選挙の結果について書かれた記事を活用した。

メディアリテラシーに関する授業の際、あらゆる新聞の一面記事が同じであったため比較して読み、違い等について話し合った。また、社説のテーマが同じ新聞を活用し、異なる点を整理する活動も行った。

「道徳」

バリアフリーや障害者福祉、障害理解に関する記事を複数提示し、さまざまな視点から考える教材として活用した。

③ 高等部

「道徳」

企業の採用ルール廃止の記事や公共の場のルールのコラムを教材として取り上げ、社会のルールについて考えた。

「進路学習」

面接試験に備えて、時事的な話題、記事について意見をまとめた。

3 まとめ

(1) 成果

今年度はN I E実践の1年目であり、新聞の存在を身近に感じることをねらいとした。実際に新聞を手にしたたり、記事を読んだりすることで、いろいろな情報が詰め込まれていることを理解した児童生徒もいた。また、新聞と一緒に配布される広告に関心を向けた生徒もいた。広告に載っている物の値段や求人広告などを授業に利用した学級もあった。

本校は少人数学級であり、教師と児童生徒の距離が短い。意見を交わしやすい反面、考えの多様性はあまり見られない。新聞記事は教材としてだけでなく、他者の意見としても取り上げることができた。

(2) 課題

職員に対して新聞の活用について、具体的に周知することが必要であった。自由に利用してもらうことをねらっていたが、逆に活用の仕方に悩む様子も見られた。新聞の最新の情報に対して、授業にどのように計画的に取り入れるのかが課題である。

病気治療中の児童生徒は活動時間が制限されている。そのため、毎日配達されるたくさんの新聞記事の中から興味ある記事を探すことに時間がかかった。テーマを決めて記事を探すことも必要であった。

また、今年度は新聞購読を短期間にしたが、新聞のある学校になれてきたころに購読期間が終わってしまった。限られた時間の中で購読可能な量の数紙を長期間購読することで、記事とじっくり向き合えるのではと考えた。

新聞を活用した生徒が主体的に取り組み、自ら考えることをめざした政治・経済の指導について

千葉県立四街道特別支援学校高等部 石川 美雪

1 はじめに

本校は、病気を有する児童生徒が在籍する特別支援学校である。今年度からN I E実践推進校の指定を受け、新聞活用に関する取り組みを始めた。今年度は高等部での政治・経済の科目を中心に授業づくりに取り組むことにした。

2 実践状況

高等部3年生の生徒3名は、公民科の選択科目として政治・経済を履修している。3名とも地理歴史、公民のいずれの科目にも興味・関心があり、ネットニュースやテレビでのニュース番組を良く観ている。しかしながら、自宅で新聞を購読していないため、ほとんど読んだ経験がない。そこで、今年度は、新聞を活用し、より深く社会的事象を知り、生徒自身が主体的に取り組み、自ら考えることをめざした指導のあり方を実践することにした。

(1)「新聞に親しみ、新聞の活用の仕方を知ろう」

政治・経済の授業は、週2時間、毎週火曜日と金曜日に行っている。新聞各紙の一面の記事の読み比べから入り、見出しや新聞記事の内容の違いに気づくことができるようにしたいと考えた。この取り組みは1年を通して行った。

(2)「各テーマに沿った新聞記事を選び、コメントやレポートを書こう」

「憲法改正と18歳選挙権について考えよう」では、高等部3年になり、自分たちも選挙権年齢に達することからこの題材を設定した。もし、憲法改正のための国民投票が行われたとしたら、有権者としてどのような判断をするのかを考えさせ

た。考えた内容はA4サイズ1枚のレポートにまとめるようにした。憲法改正に関する記事は、多くの新聞社で取り扱っていたため、多くの新聞を用意し、生徒自身に様々な視点で考えさせた。

「米朝首脳会談について考えよう」では、新聞記事を読み、自分がこの会談について考える際に大事だと思われる文を探し、アンダーラインを引くように促した。それから、ワークシートにキーワードや感想を記入し、感想を発表し合った。発展問題として、米朝首脳会談から見えてくる平和への提言にも取り組んだ。ワークシートは、新聞社が提供しているシートを活用した。

夏季休業中の課題として、夏休みの5大ニュースと感想をワークシートにまとめてくるようにした。それぞれのニュースをランキング形式にしてN I Eコーナーに掲示した。



「平和について考えよう」では、広島や長崎の原爆投下や終戦に関する記事から、新聞記事の切り抜き新聞を作る学習を行った。広島や長崎の原爆投下のニュースは、生徒に

にとってはいつもの定例化した行事としか映っていなかったようだが、新聞記事を読んだり、被爆地を旅行した生徒の経験の話を聞いたりするうちに、進んで取り組む姿が見られるようになった。

9月、10月にはN I E実践推進校として8社の新聞が届けられた。授業で活用するだけでなく、N I Eコーナーに「9月のニュース」として

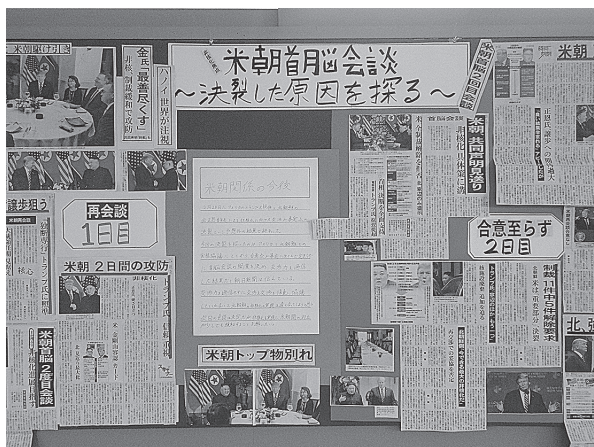
9月の様々な分野の新聞記事を模造紙に貼り、掲示した。

11月と2月は、「政治・経済新聞を作ろう」に取り組んだ。これまでの政治・経済の学習を生かし、各個人で作成し、最後に発表し合うようにした。



11月は、政治・経済に関する記事を3つ選択し、記事と自筆のコメントを台紙に貼り、切り抜き新聞を作成した。新聞名も自分たちで考え命名した。生徒によっては、新聞の切り抜きや貼り付け作業のスピードが異なるため、支援が必要な生徒には、援助依頼をするように予め伝えるようにした。2月は11月の学習を発展させ、政治・経済に関する内容の記事を3つ選択し、記事に共通する見出しをつける内容を付け加えた。

3月は、卒業記念として、再び全員で新聞記事を切り抜き、切り抜き新聞を作る学習に取り組んだ。テーマは「沖縄の県民投票について」と「二度目の米朝首脳会談について」のこの2つの中から生徒が選択をし、米朝首脳会談に決定した。それぞれが新聞記事を選択し、選択した記事から見出しを何にするのかを話し合った。選択した記事を会談の1日目と2日目に分けてレイアウトし、



なぜ会談が決裂したのかという視点で意見をまとめた。

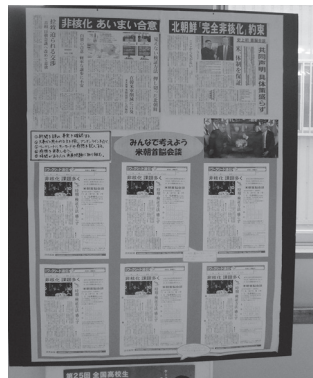
3 結果

(1)「新聞に親しみ、新聞の活用の仕方を知ろう」

毎回、授業の始めの5分程度、新聞各社の一面の新聞記事の読み比べを行なった。見出しからおよその内容が分かり、同じ社会的事象であっても、捉え方の違いによって記事が同じ内容であったり、全く違う内容であったりと、多様な考え方を知るきっかけになった。また、授業が始まるなり、「先生、今日の一面は〇〇ですかね。」や、新聞を見るなり、「これ、テレビでもやりましたね。」といった言葉が飛び交うようになり、新聞に関心を抱くようになった。

「憲法改正と18歳選挙権について考えよう」では、日本国憲法について学習していた時期と重なり、リアルタイムで憲法について考える契機となり、主体的に取り組むことができた。4月末から5月にかけては、憲法記念日に因み、多くの新聞社が特集を組むことが多い。今回も対談形式の記事や読者からの投稿など様々な記事を学習材として提供したことで、幅広く考えることができた。これにより、生徒が多様な考えを知ることは、公平なもの見方や考え方に繋がるために大切な要素だと思われた。

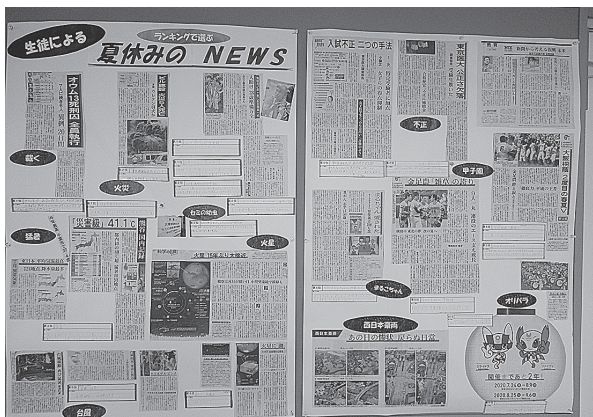
「米朝首脳会談について考えよう」では、ワークシートを活用したことで、新聞の要旨が捉えやすく、短時間で自分の考えをまとめることができた。米朝



首脳会談に関する新聞記事と生徒のワークシートを廊下に掲示し、掲示物を読んだ生徒と作成した

生徒との会話が生まれるように工夫した。掲示物を読む他の学級の生徒や職員の姿を見かけるようになった。生徒からも、「自分たちが作成した新聞等を張り出してもらい、自分たちがどんな勉強をしているのかを知ってもらおう機会になった。」と発言していた。

「平和について考えよう」では、新聞記事に自分たちの思いをコメント用紙に書いたり、自分たちの願いを話し合ったりした。新聞記事を読んだ当初は、いつものセレモニー的な内容として捉えていた生徒も生徒同士で話し合い、新聞記事を読み比べるうちに、広島や長崎で被爆した人々や戦争を体験した人々に思いを馳せて考えるようになっていった。また、夏休みに長崎市を旅行した体験から平和について考えるようになった生徒もいた。話し合いを進めるうちに、「平和の炎」を描き、自分たちの思いを込めたいという生徒も出てきて、次第に考え方に広がりが出て、主体的に取り組むようになっていった。完成した作品を見て、自分たちの思いを切り抜き新聞という形に仕上げられたことに大変満足していた。



「政治・経済新聞を作ろう」では、11月は、政治・経済に関する3つの記事を選択し、切り抜き新聞を作成した。今回は個別の活動にした。政治に関する記事や経済に関する記事などを偏りなく選択した生徒が多かった。それぞれの新聞記事へのコメントも分かりやすく公平な見方、考え方が分か

るような内容で記述することができた。記事のレイアウトや新聞名にも気を配り、個性豊かな新聞を作り上げることができた。2月は、11月の政治・経済新聞作りの経験を生かし、コメントも的確に書くことができるようになった。また、レイアウトや新聞記事に強調するアンダーラインの引き方(色や太さ)に工夫が見られた。見出し作りでは、3つの記事から共通の見出しを考えるのが難しかったようであった。そこで、日本の立場なのか、それとも世界の立場なのか、どこに視点を置くのかを考えるように助言をしたことで、誰が見ても分かる見出しを考えることができた。

「再びの米朝首脳会談について考えよう」では、全員で取り組み、新聞記事を選択しその記事を基にテーマを決めた。テーマは、「米朝首脳会談～決裂した原因を探る～」とし、それに沿って記事のレイアウトをした。会談が決裂に終わったことが印象に残ったようで、決裂する前の1日目と決裂した2日目に分けたレイアウトにし、自分たちの主張が伝わりやすいようにした。これまでの切り抜き新聞作りを生かして、自分たちが伝えたいことを伝わりやすく作成することができた。

4 考察

(1) 多様な考え方を育てるために

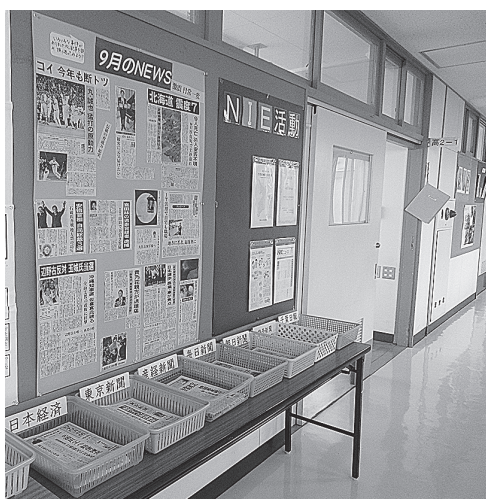
様々な記事に触れるようにしたことで、多様な考え方を知ることができた。同じ社会的事象であっても、8紙あれば8通りの考え方に触れ、新聞各社の様々な記事を読み比べることにより幅広く考えることができるようになった。

(2) 新聞を活用し、生徒が主体的に取り組む、自ら考えるために

新聞には、対談記事や読者の投稿もあり、様々な視点で考えることもできた。生徒からも、「教科書の内容だけでなく、実際に切り抜き新聞を

作ったことが印象に残っている。」「新聞を読んだことで深く考えることができた。」といった感想が聞かれた。このことは、社会的事象をリアルタイムで学習でき、これまでの学習内容を新聞記事とリンクさせ、複合的に思考しながら読み比べをすることに学習意欲を掻き立てられたからではないだろうか。

実際に活用する方法として、新聞の一面のページの読み比べなどの通年を通しての活動、切り抜き新聞での生徒が協力して作成する活動と個別での活動を適宜組み合わせながら行った。生徒の主体性や思考力の拡大化を図ることができ、効果的であったと考える。



最後に、新聞は、活字という手段で情報を伝えてくれる。「今」を学習できる教材として使用することもできるが、スクラップをし、過去を学習することもできる。更には、スクラップをすることで、過去から未来を学習することもできる。学習材として柔軟に使用することができる優れた学習材であることを改めて感じた。今後も生徒の実態に合わせて活用していきたい。

2018 (平成 30)年度N I E実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL/FAX	備考
1	八千代市立勝田台南小学校	吉原 幸子	辻村 千晶	〒 276-0023 八千代市勝田台 5- 9	047-483-0286 047-483-0022	29・ 30年度
2	船橋市立芝山中学校	日高祐一郎	駒野 和典	〒 274-0816 船橋市芝山 1- 40- 11	047-464-3448 047-464-3449	29・ 30年度
3	我孫子市立我孫子第三小学校	鈴木与志実	浅水 美記	〒 270-1176 我孫子市柴崎台 3- 3- 1	04-7184-1171 04-7184-1180	29・ 30年度
4	松戸市立新松戸南中学校	小出 斉	石原 稔	〒 270-0035 松戸市新松戸南 2- 124	047-344-0188 047-345-0626	29・ 30年度
5	富里市立日吉台小学校	松島 馨	新井潤一郎	〒 286-0201 富里市日吉台 4- 21	0476-93-6369 0476-93-6364	29・ 30年度
6	旭市立干潟中学校	齊藤 実	杉山耕一郎	〒 289-0515 旭市入野 2170	0479-68-2456 0479-68-4139	29・ 30年度
7	いすみ市立東海小学校	田中 憲生	大高 純子	〒 298-0001 いすみ市若山 1042	0470-62-0269 0470-62-4290	29・ 30年度
8	山武市立蓮沼中学校	井内 毅	千田 賢弥	〒 289-1806 山武市蓮沼ハ- 1036	0475-86-2037 0475-86-2176	29・ 30年度
9	富津市立天神山小学校	鈴木マユ美	植田 正代	〒 299-1618 富津市花輪 104	0439-67-0062 0439-67-2060	29・ 30年度
10	富津市立大貫中学校	和田 俊昭	山崎 康成	〒 293-0043 富津市岩瀬 619	0439-65-0053 0439-65-2124	29・ 30年度
11	千葉市立大森小学校	黒川 章子	山本 慧一	〒 260-0811 千葉市中央区大森町 268	043-261-3445 043-268-5886	29・ 30年度
12	千葉市立磯辺中学校	増澤 保明	櫻井 翔	〒 261-0012 千葉市美浜区磯辺 7- 1- 1	043-279-2891 043-278-4913	29・ 30年度
13	千葉県立成田国際高等学校	渡邊 信治	宮本 修	〒 286-0036 成田市加良部 3- 16	0476-27-2610 0476-26-7154	29・ 30年度
14	睦沢町立睦沢小学校	阿部倉光宏	積田 裕子	〒 299-4415 長生郡睦沢町小滝 450- 1	0475-44-0009 0475-44-2830	30・ 31年度
15	市原市立清水谷小学校	小野寺源彦	阿部 広樹	〒 290-0142 市原市ちはら台南 5- 2	0436-52-3681 0436-52-3691	30・ 31年度
16	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校	小林 修一	大塚 功祐	〒 273-0101 鎌ヶ谷市富岡 1- 2- 1	047-444-0456 047-444-0457	30・ 31年度
17	昭和学院秀英中学校高等学校	鈴木 政男	秋葉 亜紀	〒 261-0014 千葉市美浜区若葉 1- 2	043-272-2481 043-272-4732	30・ 31年度
18	松戸市立松戸高等学校	浅田 勉	瀬和真一郎	〒 270-2221 松戸市紙敷 2- 7- 5	047-385-3201 047-385-3467	30・ 31年度
19	千葉県立君津青葉高等学校	安西 聖依	根本 哲一	〒 292-0454 君津市青柳 48	0439-27-2351 0439-27-2146	30・ 31年度
20	千葉県立仁戸名特別支援学校	渡辺あけみ	高橋 智子	〒 260-0801 千葉市中央区仁戸名町 673	043-264-5400 043-268-5082	30・ 31年度
21	千葉県立四街道特別支援学校	平野 洋一	石川 美雪	〒 284-0003 四街道市鹿渡 934- 45	043-422-2609 043-424-4679	30・ 31年度

継続

新規

2018（平成30）年度 千葉県N I E推進協議会 役員

2018/5/14現在

会 長	藤 川 大 祐	千 葉 大 学 教 育 学 部 教 授
副 会 長	中 村 祥 一	千 葉 県 小 学 校 長 会 会 長
副 会 長	本 山 哲 也	千 葉 県 中 学 校 長 会 会 長
副 会 長	廣 部 泰 紀	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 会 長
顧 問	澤 川 和 宏	千 葉 県 教 育 委 員 会 教 育 長
顧 問	磯 野 和 美	千 葉 市 教 育 委 員 会 教 育 長
幹 事	池 田 亘 宏	千 葉 県 小 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	大 野 治 充	千 葉 県 中 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	山 崎 成 夫	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 副 会 長
幹 事	佐々木 隆之	千 葉 県 特 別 支 援 学 校 長 会
幹 事	鶴 岡 利 明	千 葉 県 教 育 庁 指 導 課 主 席
幹 事	渡 邊 安 規	千 葉 県 教 育 庁 指 導 課 指 導 主 事
委 員	村 上 宣 雄	朝 日 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	齋 藤 浩 浩	産 経 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	小 國 智 宏	東 京 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	池 内 新 太 郎	日 本 経 済 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	篠 瀬 祥 子	日 刊 工 業 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	木 戸 哲 雄	毎 日 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	森 昭 雄	読 売 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐々木 昌巳	時 事 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	高 橋 潤	共 同 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	渡 辺 敏	千 葉 日 報 社 編 集 局 長

監 査 (原則、各新聞社による九社会幹事)

アドバイザー	石 毛 一 郎	県 立 成 田 国 際 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	内 山 浩 史	県 立 佐 倉 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	松 井 初 美	香 取 市 立 小 見 川 中 学 校 教 諭
アドバイザー	武 藤 和 彦	市 川 市 立 市 川 第 二 中 学 校 教 諭
アドバイザー	神 尾 啓 子	千 葉 県 新 聞 教 育 研 究 所 主 宰
事務局 長	林 淳 一	千 葉 日 報 社 読 者 サ ー ビ ス 室 長

2019 (平成 31)年度N I E実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL / FAX	備考	
1	千葉県立成田国際高等学校	深山 和利	石毛 一郎	〒 286-0036 成田市加良部 3- 16	0476-27-2610 0476-26-7154	2017・18 19年度	
2	睦沢町立睦沢小学校	阿部倉光宏	鳥居 由貴	〒 299-4415 長生郡睦沢町小滝 450- 1	0475-44-0009 0475-44-2830	2018 2019年度	
3	市原市立清水谷小学校	小野寺源彦	阿部 広樹	〒 290-0142 市原市ちはら台南 5- 2	0436-52-3681 0436-52-3691	2018 2019年度	
4	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校	菅井 浩樹	大塚 功祐	〒 273-0101 鎌ヶ谷市富岡 1- 2- 1	047-444-0456 047-444-0457	2018 2019年度	
5	昭和学院秀英中学校高等学校	鈴木 政男	出口 郁子	〒 261-0014 千葉市美浜区若葉 1- 2	043-272-2481 043-272-4732	2018 2019年度	継続
6	松戸市立松戸高等学校	浅田 勉	瀬和真一郎	〒 270-2221 松戸市紙敷 2- 7- 5	047-385-3201 047-385-3467	2018 2019年度	
7	千葉県立君津青葉高等学校	安西 聖依	根本 哲一	〒 292-0454 君津市青柳 48	0439-27-2351 0439-27-2146	2018 2019年度	
8	千葉県立仁戸名特別支援学校	渡辺あけみ	高橋 智子	〒 260-0801 千葉市中央区仁戸名町 673	043-264-5400 043-268-5082	2018 2019年度	
9	千葉県立四街道特別支援学校	平野 洋一	石川 美雪	〒 284-0003 四街道市鹿渡 934- 45	043-422-2609 043-424-4679	2018 2019年度	
10	習志野市立東習志野小学校	鈴木 清彦	大類 紀章	〒 275-0001 習志野市東習志野 3- 4- 2	047-477-8484 047-477-8485	2019 2020年度	
11	香取市立小見川中学校	林 俊幹	松井 初美	〒 289-0314 香取市小見川 4685	0478-82-3144 0478-82-3145	2019 2020年度	
12	いすみ市立浪花小学校	行川 永	幸保美知栄	〒 298-0012 いすみ市小沢 1157	0470-62-1507 0470-62-4333	2019 2020年度	
13	市川市立新井小学校	小嶋 享治	安井 真紀	〒 272-0144 市川市新井 1- 18- 13	047-357-1722 047-357-1727	2019 2020年度	
14	千葉市立検見川小学校	浅野 一久	仲西 淳人	〒 262-0023 千葉市花見川区検見川 3- 322- 23	043-273-8030 043-273-1269	2019 2020年度	新規
15	館山市立館野小学校	金房 努	田中福太郎	〒 294-0014 館山市山本 1028	0470-22-1061 0470-24-2173	2019 2020年度	
16	柏市立手賀中学校	大越 章正	伊藤 昌子	〒 270-1454 柏市柳戸 690	04-7191-1604 04-7191-1218	2019 2020年度	
17	千葉県立小見川高等学校	田中 三郎	佐々木祐弥	〒 289-0313 香取市小見川 4735- 1	0478-82-2146 0478-83-2494	2019 2020年度	
18	千葉県立大網高等学校	岩土 賢祐	林 雅彦	〒 299-3251 大網白里市大網 435- 1	0475-72-0003 0475-73-2095	2019 2020年度	
19	船橋市立前原小学校	齊藤 浩憲	野崎 敏之	〒 274-0825 船橋市前原西 2- 28- 1	047-472-2156 047-472-2157	2019 2020年度	

2019（平成31）年度 千葉県N I E推進協議会 役員

会 長	藤 川 大 祐	千 葉 大 学 教 育 学 部 教 授
副 会 長	中 澤 泰 藏	千 葉 県 小 学 校 長 会 会 長
副 会 長	中 市 東 努	千 葉 県 中 学 校 長 会 会 長
副 会 長	市 佐 藤 幸	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 会 長
顧 問	澤 川 和 宏	千 葉 県 教 育 委 員 会 教 育 長
顧 問	磯 野 和 美	千 葉 市 教 育 委 員 会 教 育 長
幹 事	原 早 苗	千 葉 県 小 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	椎 名 和 浩	千 葉 県 中 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	安 藤 久 彦	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 副 会 長
幹 事	西 山 博 明	千 葉 県 特 別 支 援 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	鶴 岡 利 明	千 葉 県 教 育 庁 学 習 指 導 課 教 育 課 程 室 主 幹
幹 事	渡 邊 涼 二	千 葉 県 教 育 庁 学 習 指 導 課 指 導 主 事
委 員	村 上 宣 雄	朝 日 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	斎 藤 浩	産 経 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	鬼 木 洋 一	東 京 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	池 内 新 太 郎	日 本 経 済 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	松 之 舎 茂 喜	日 刊 工 業 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	鮎 川 耕 史	毎 日 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	吉 山 隆 晴	読 売 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 々 木 昌 巳	時 事 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	高 橋 潤	共 同 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 藤 大 介	千 葉 日 報 社 編 集 局 長
監 査	（原則、各新聞社による九社会幹事）	
アドバイザー	石 毛 一 郎	県 立 成 田 国 際 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	内 山 浩 史	県 立 佐 倉 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	松 井 初 美	香 取 市 立 小 見 川 中 学 校 教 諭
アドバイザー	武 藤 和 彦	市 川 市 立 市 川 第 三 中 学 校 初 任 者 指 導
アドバイザー	神 尾 啓 子	千 葉 県 新 聞 教 育 研 究 所 主 宰
アドバイザー	石 川 剛 士	浦 安 市 立 日 の 出 小 学 校 教 諭
アドバイザー	芳 賀 裕 美	市 川 市 立 須 和 田 の 丘 支 援 学 校 教 諭
事務局 長	安 原 直 樹	千 葉 日 報 社 読 者 サ ー ビ ス 室 長

千葉県 NIE 推進協議会事務局
(千葉日報社内)

〒260-0013 千葉市中央区中央 4-14-10
TEL 043-227-1139 FAX 043-224-3662